

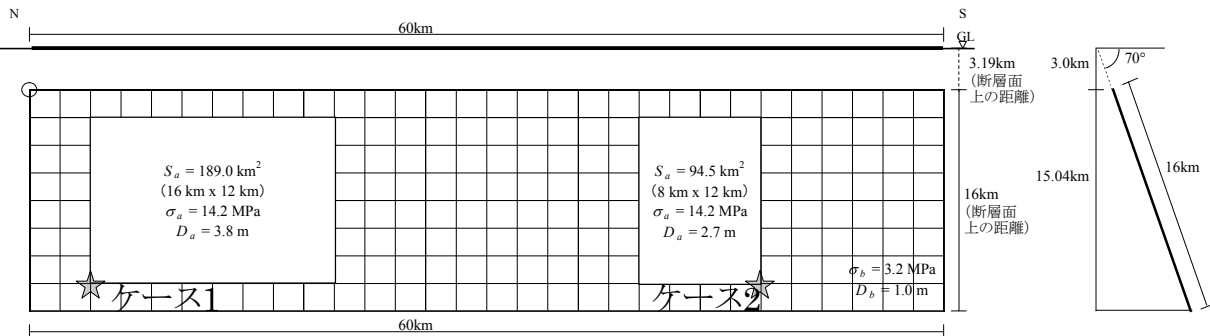
琵琶湖西岸断層帯 (びわこせいがんだんそうたい)

地震諸元

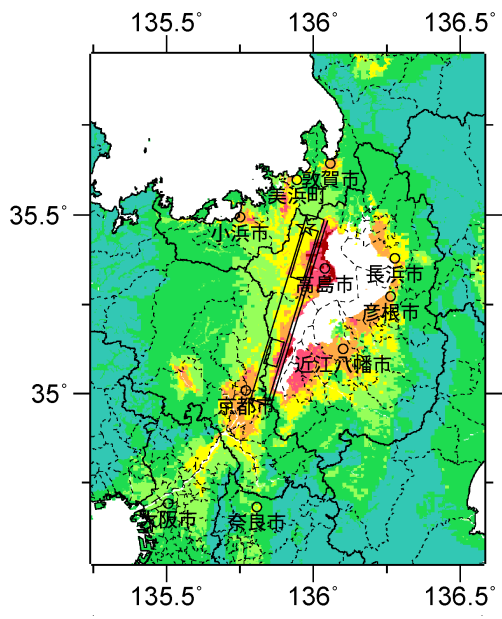
コード	断層名称	断層面のずれの向き		M_J	断層長さ	断層面の幅	断層面の傾斜角	地震発生層の深さ
6501	琵琶湖西岸断層帯	西側隆起の逆断層	長期評価	(強震動評価の断層モデルに基づいてモデル化)				
			モデル化	M_w 7.1	60km	16km	西傾斜 70度	3-18km

強震動予測のための断層モデルのパラメータ

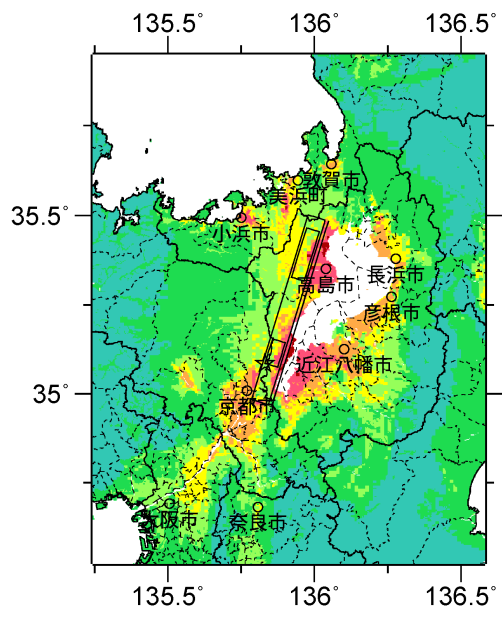
断層パラメータ	設定方法	想定琵琶湖西岸断層帯地震	
		緯度経度	値
断層帯原点	H16年強震動評価時に基づく	北緯35° 29'	東経136° 3'
活断層長さ L	長期評価による		59 km
断層モデル原点	地中の断層モデル原点位置	北緯35° 29' 12.1"	東経136° 2' 11.7"
走向 θ	長期評価の原点を結ぶ方向		N 197° E
傾斜角 δ	H16年強震動評価時に基づく		70°
すべり角 γ	H16年強震動評価時に基づく(西側隆起の逆断層)		90°
断層モデル上端深さ	微小地震の発生及びS波速度を参考に設定		3 km
断層モデル長さ L_{model}	H16年強震動評価時に基づく		60 km
断層モデル幅 W_{model}	H16年強震動評価時に基づく		16 km
断層モデル面積 S_{model}	$S_{model} = L_{model} \times W_{model}$		960 km ²
地震モーメント M_0	$M_0 = (S/4.24 \times 10^{11})^2 \times 10^7$		5.13E+19 Nm
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$		7.1
気象庁マグニチュード M_{JMA}	$M_{JMA} = \log M_0 - 10.72 / 1.17$		7.7
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta\sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$		4.2 MPa
密度 ρ	震源における密度		2700.0 kg/m ³
S波速度 β	震源におけるS波速度		3.4 km/s
剛性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$		3.12E+10 N/m ²
破壊伝播速度 V_r	$V_r = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976)より)		2.4 km/s
平均すべり量 D	$D = M_0 / (\mu S_{model})$		1.7 m
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$		1.97E+19 N·m/s ²



微視的断層モデルとその直交断面

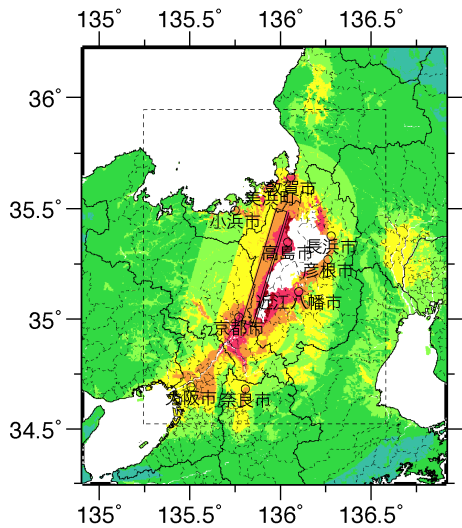


ケース 1



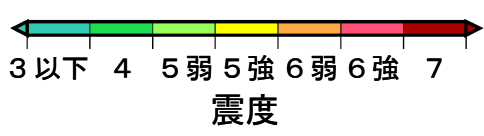
ケース 2

詳細法震度分布



※図中の破線範囲は詳細法による解析範囲を示す。

簡便法震度分布



養老-桑名-四日市断層帯 (ようろう-くわな-よっかいちだんそうたい)

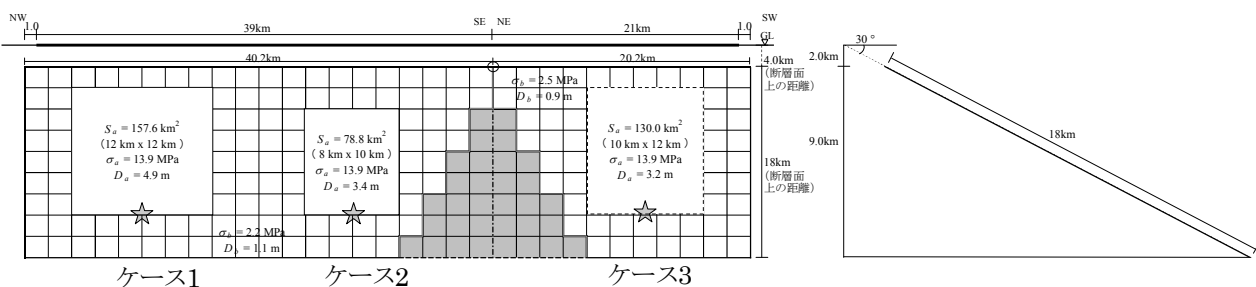
※ 地震モーメントの値はレシピ通りで微視的パラメータを設定したモデル

地震諸元

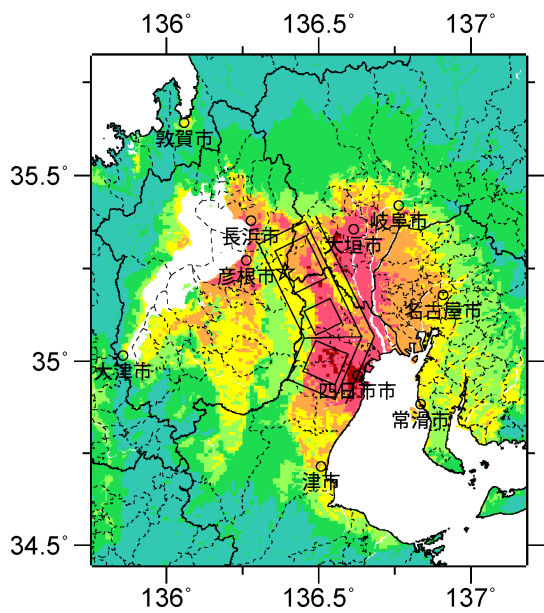
コード	断層名称	断層面のずれの向き		M_J	断層長さ	断層面の幅	断層面の傾斜角	地震発生層の深さ
6701	養老-桑名-四日市断層帯	西側隆起の逆断層	長期評価	8程度	約60km	約30-40km	西傾斜約30度	下限約15-20km
			モデル化	M_w 7.2	38.2km 20.2km	18km 18km	西傾斜30度 西傾斜30度	2-17km

強震動予測のための断層モデルのパラメータ

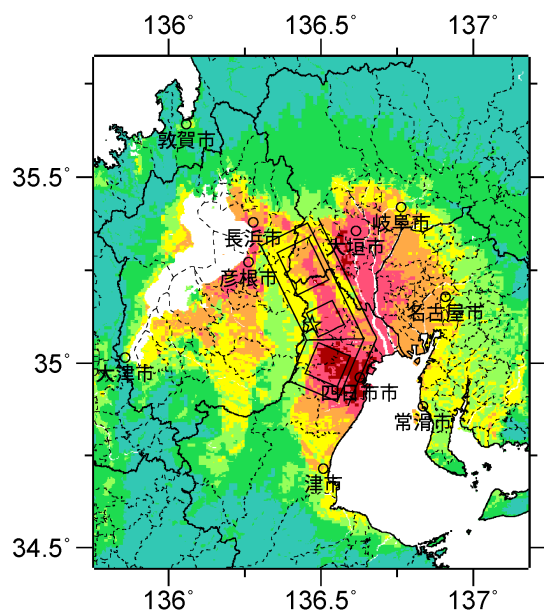
断層パラメータ	設定方法	想定養老-桑名-四日市断層帯地震	
		北部	南部
断層帯原点	長期評価による (北部南端、南部北端にあたる屈曲点を原点)	北緯35° 4'	北緯35° 4'
活断層長さ L		東経136° 41'	東経136° 41'
気象庁マグニチュード M_{JMA}		60 km	
地震モーメント M_0	$\log M_0 = 1.17 M_{JMA} + 10.72$	6.96E+19 Nm	
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	7.2	
断層モデル原点	地中の断層モデル原点位置(設けた屈曲点)	北緯35° 3' 56.9" 東経136° 38' 28.4"	
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	2 km	2 km
断層モデル長さ L_{model}	ルールに従い設定した地表トレース	40 km	22 km
断層モデル幅 W_{model}	ルールに従い設定	18 km	18 km
断層モデル面積 S	ルールに従い設定	720.0 km ²	396.0 km ²
走向 θ	長期評価の原点を結ぶ方向	N 334° E	N 203° E
傾斜角 δ	約30° 西傾斜	150°	30°
すべり角 γ	西側隆起の逆断層	90°	90°
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta\sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	4.6 MPa	
平均すべり量 D	$D = M_0 / (\mu S_{model})$	2.0 m	
剛性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10 N/m ²	
密度 ρ	震源における密度	2700.0 kg/m ³	
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.4 km/s	
破壊伝播速度 V_f	$V_f = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976)より)	2.4 km/s	
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	2.18E+19 N·m/s ²	



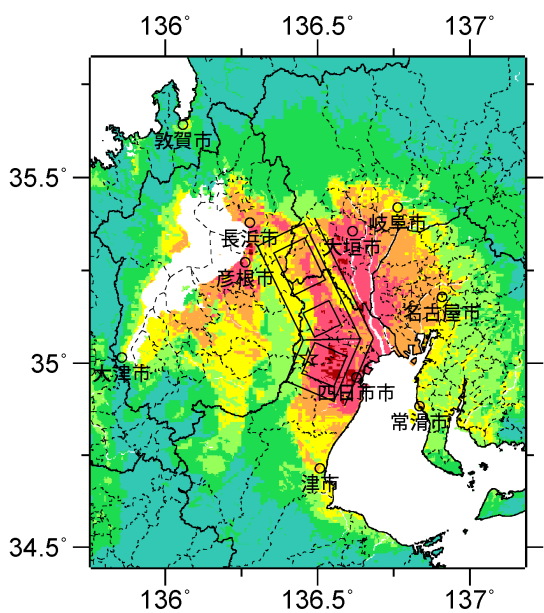
微視的断層モデルとその直交断面



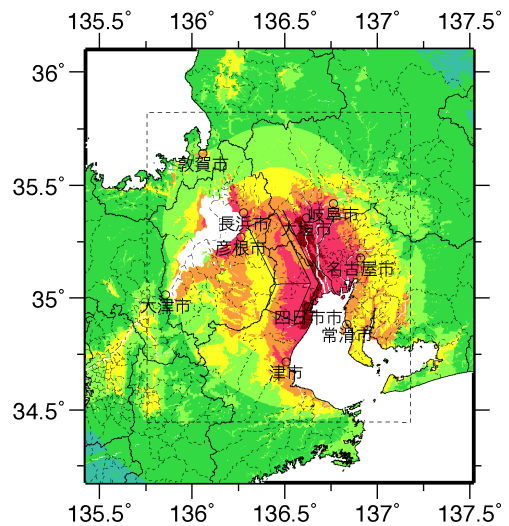
ケース 1



ケース 2



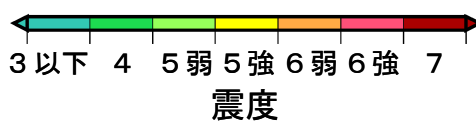
ケース 3



※図中の破線範囲は詳細法による解析範囲を示す。

詳細法震度分布

簡便法震度分布



養老-桑名-四日市断層帯 (ようろう-くわな-よっかいちだんそうたい)

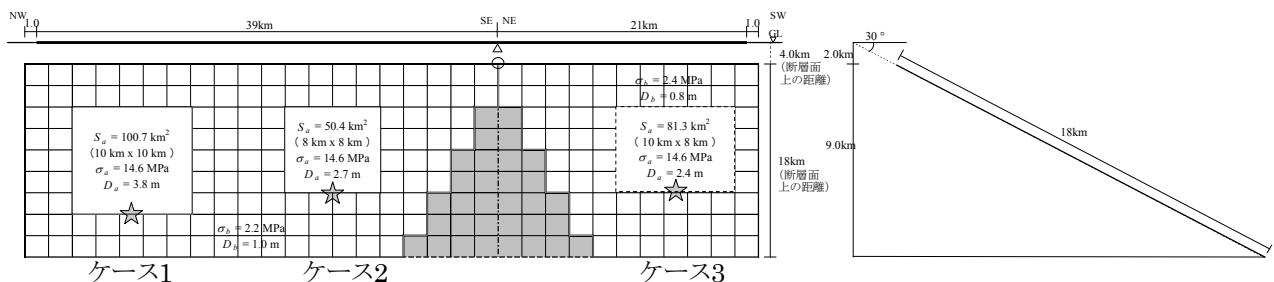
※ 面積が重なった分の地震モーメントを小さくして微視的パラメータを求めたモデル

地震諸元

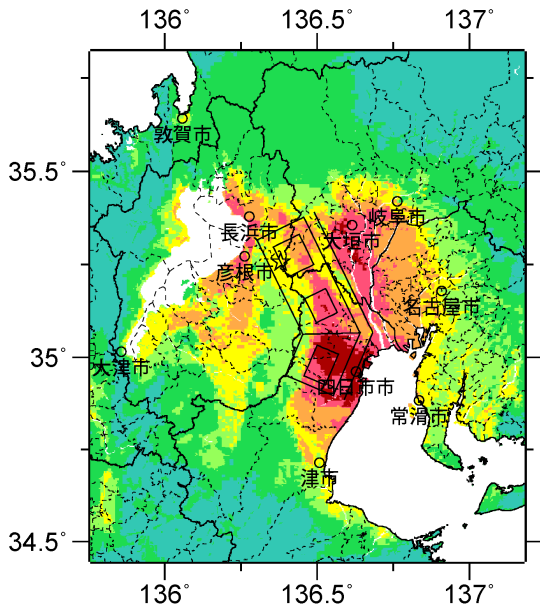
コード	断層名称	断層面のずれの向き		M_J	断層長さ	断層面の幅	断層面の傾斜角	地震発生の深さ
6701	養老-桑名-四日市断層帯	西側隆起の逆断層	長期評価	8程度	約60km	約30-40km	西傾斜約30度	下限約15-20km
			モデル化	M_w 7.2	38.2km 20.2km	18km 18km	西傾斜30度 西傾斜30度	2-17km

強震動予測のための断層モデルのパラメータ

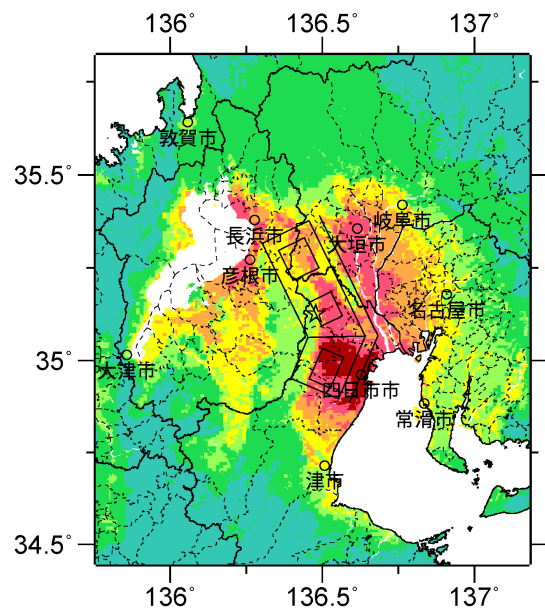
断層パラメータ	設定方法	想定養老-桑名-四日市断層帯地震	
		北部	南部
断層帯原点	長期評価による (北部南端、南部北端にあたる屈曲点を原点)	北緯35° 4'	北緯35° 4'
活断層長さ L		東経136° 41'	東経136° 41'
気象庁マグニチュード M_{JMA}		60 km	
地震モーメント M_0	$\log M_0 = 1.17 M_{JMA} + 10.72$	6.96E+19 Nm	
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	7.2	
断層モデル原点	地中の断層モデル原点位置(設けた屈曲点)	北緯35° 3' 56.9" 東経136° 38' 28.4"	
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	2 km	2 km
断層モデル長さ L_{model}	ルールに従い設定した地表トレース	40 km	22 km
断層モデル幅 W_{model}	ルールに従い設定	18 km	18 km
断層モデル面積 S	ルールに従い設定	720.0 km ²	396.0 km ²
断層モデル面積(結合) S_{model}	面積が重なる部分を除いて設定	556.8 km ²	299.6 km ²
地震モーメント M_{0model}	断層モデル面積(結合) S_{model} より設定	4.08E+19 Nm	
走向 θ	長期評価の原点を結ぶ方向	N 334° E	N 203° E
傾斜角 δ	約30° 西傾斜	150°	30°
すべり角 γ	西側隆起の逆断層	90°	90°
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta\sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	4.0 MPa	
平均すべり量 D	$D = M_0 / (\mu S_{model})$	1.5 m	
剛性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10 N/m ²	
密度 ρ	震源における密度	2700.0 kg/m ³	
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.4 km/s	
破壊伝播速度 V_r	$V_r = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976)より)	2.4 km/s	
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	1.82E+19 N·m/s ²	



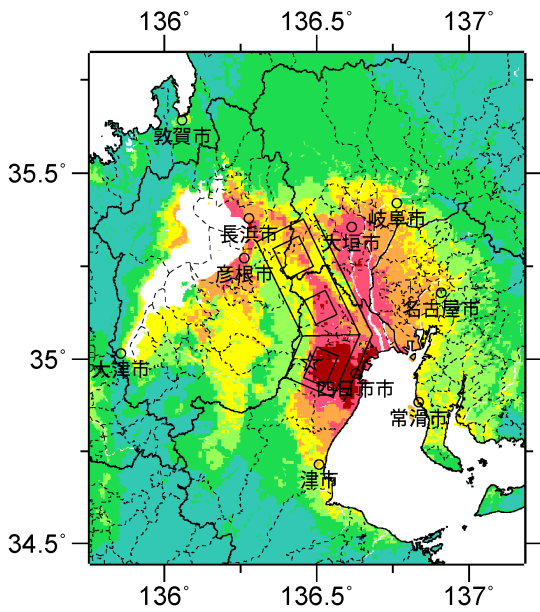
微視的断層モデルとその直交断面



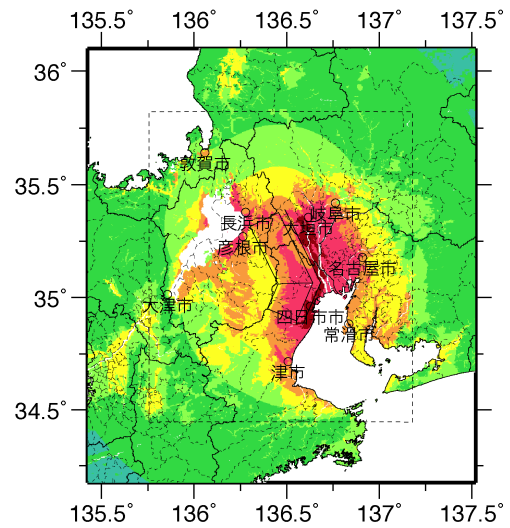
ケース 1



ケース 2



ケース 3



※図中の破線範囲は詳細法による解析範囲を示す。

詳細法震度分布

簡便法震度分布



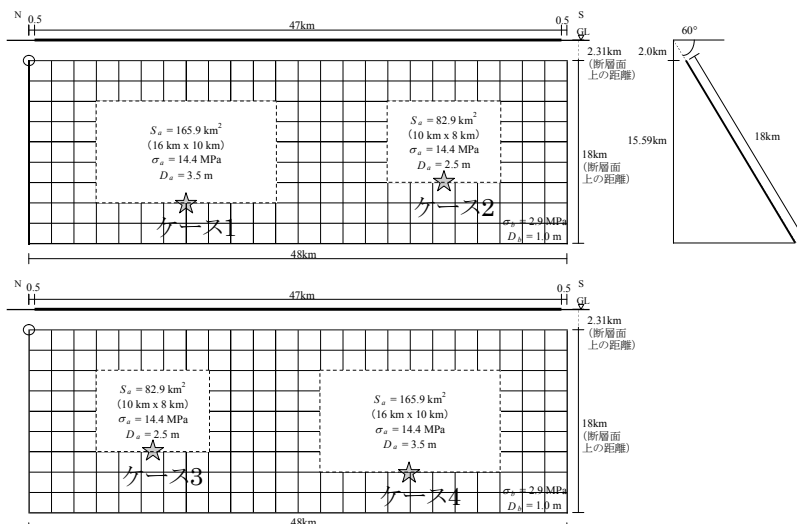
鈴鹿東縁断層帯 (すずかとうえんだんそうたい)

地震諸元

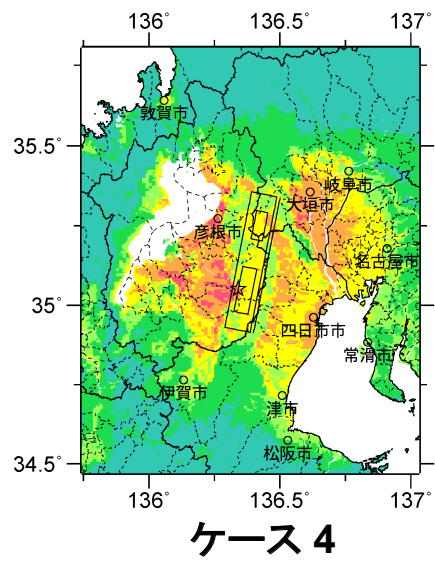
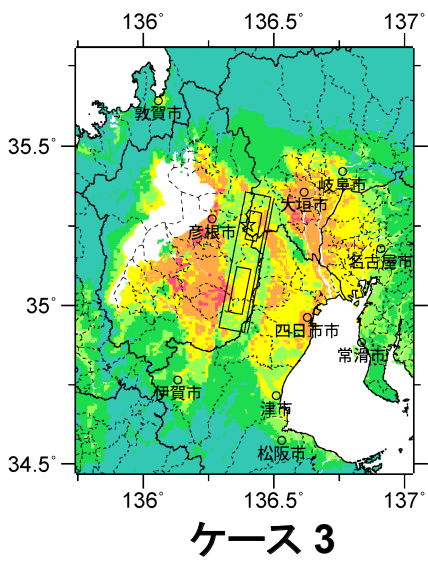
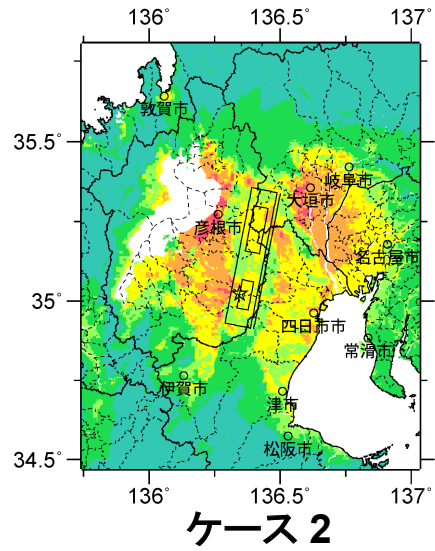
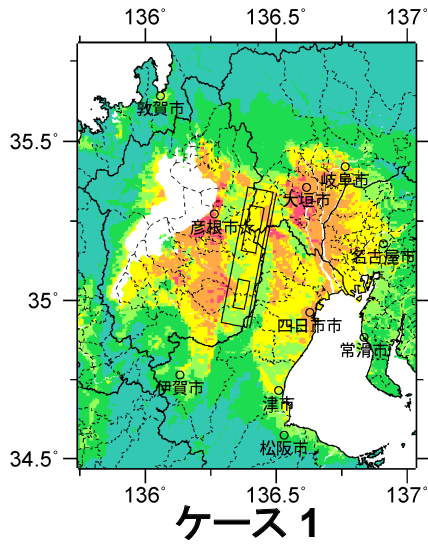
コード	断層名称	断層面のずれの向き		M_J	断層長さ	断層面の幅	断層面の傾斜角	地震発生源の深さ
6801	鈴鹿東縁断層帯	西側隆起の逆断層	長期評価	7.5程度	約34-47km	20-25km程度	境界:高角前縁30-60度	下限20km程度
			モデル化	M_w 7.0	48km	18km	西傾斜60度	2-17km

強震動予測のための断層モデルのパラメータ

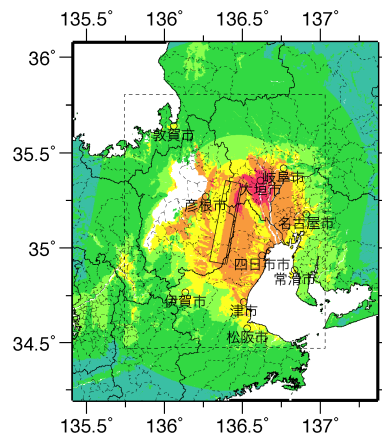
断層パラメータ	設定方法	想定鈴鹿東縁断層帯地震	
		緯度経度	パラメータ値
断層帯原点	長期評価による (断層長さは、長期評価約34-47kmの 最大値を基準とした)	北緯35° 20'	
活断層長さ L		東経136° 30'	47 km
気象庁マグニチュード M_{JMA}			7.6
地震モーメント M_0	$\log M_0 = 1.17 M_{JMA} + 10.72$		4.32E+19 Nm
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$		7.0
断層モデル原点	地中の断層モデル原点位置	北緯35° 20' 22.2"	東経136° 29' 19.2"
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定		2 km
断層モデル長さ L_{model}	ルールに従い設定		48 km
断層モデル幅 W_{model}	ルールに従い設定		18 km
断層モデル面積 S_{model}	ルールに従い設定		864 km ²
走向 θ	長期評価の原点を結ぶ方向		N 191.2° E
傾斜角 δ	地下ではやや高角(60°程度西傾斜)		60°
すべり角 γ	西側隆起の逆断層		90°
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta\sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$		4.1 MPa
平均すべり量 D	$D = M_0 / (\mu S_{model})$		1.6 m
剛性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$		3.12E+10 N/m ²
密度 ρ	震源における密度		2700.0 kg/m ³
S波速度 β	震源におけるS波速度		3.4 km/s
破壊伝播速度 V_r	$V_r = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976)より)		2.4 km/s
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$		1.86E+19 N·m/s ²



微視的断層モデルとその直交断面

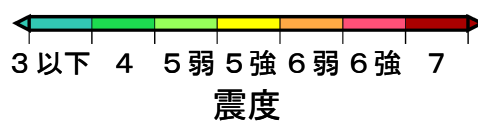


詳細法震度分布



※図中の破線範囲は詳細法による解析範囲を示す。

簡便法震度分布



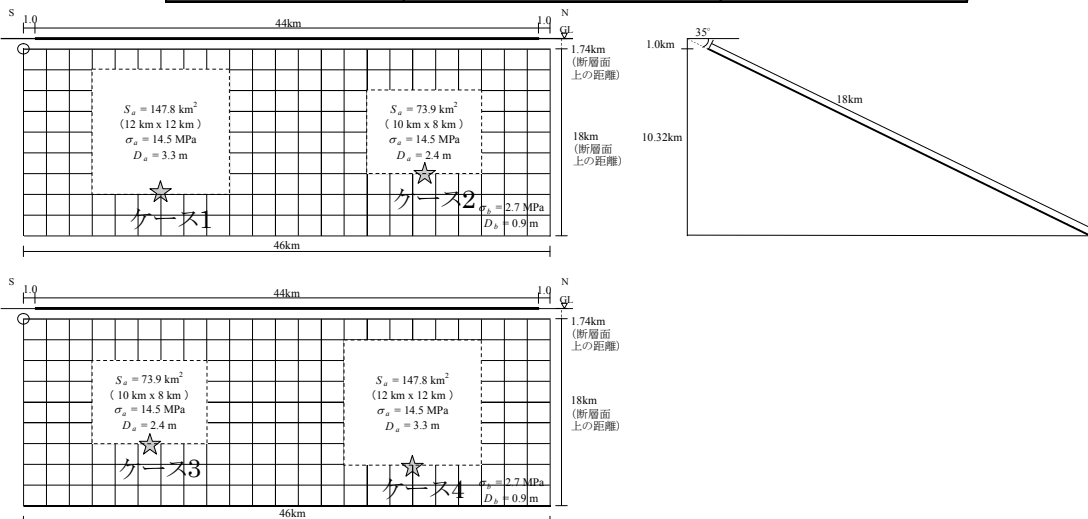
鈴鹿西縁断層帯 (すずかせいえんだんそうたい)

地震諸元

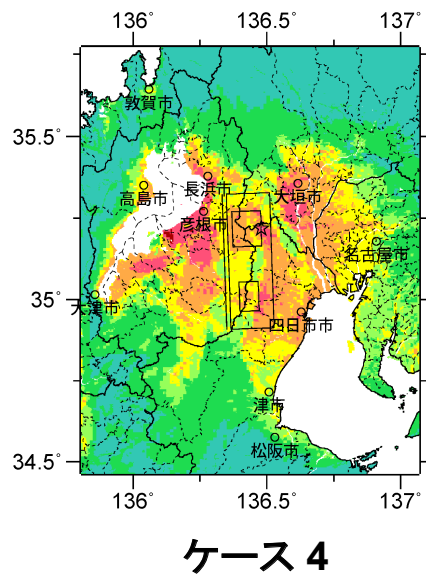
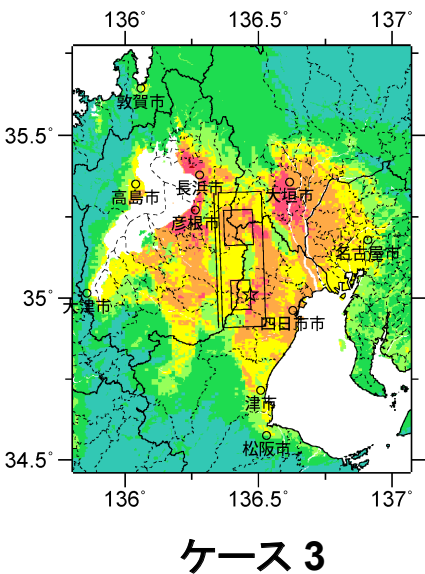
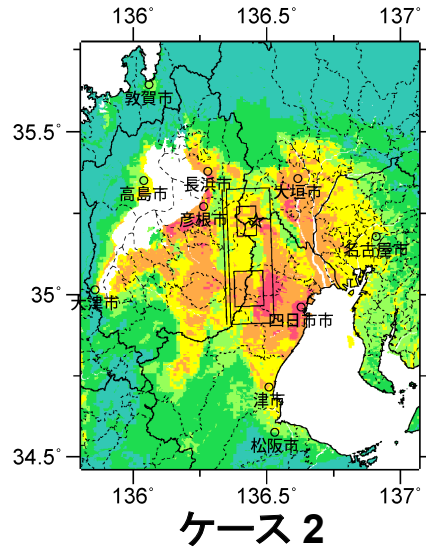
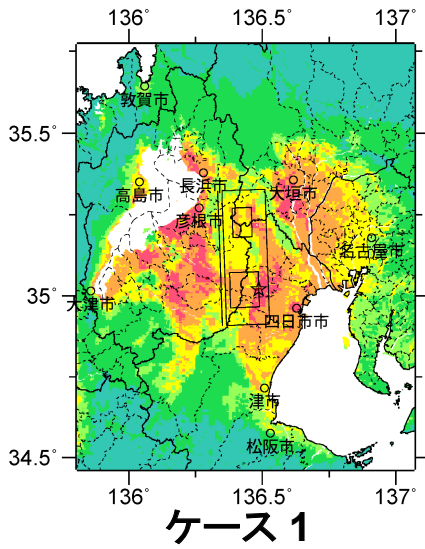
コード	断層名称	断層面のずれの向き		M_J	断層長さ	断層面の幅	断層面の傾斜角	地震発生層の深さ
6901	鈴鹿西縁断層帯	東側隆起の逆断層	長期評価	7.6程度	約44km	約30-40km	東傾斜 30-40度	下限 約20km
			モデル化	M_w 7.0	46km	18km	東傾斜 35度	1-20km

強震動予測のための断層モデルのパラメータ

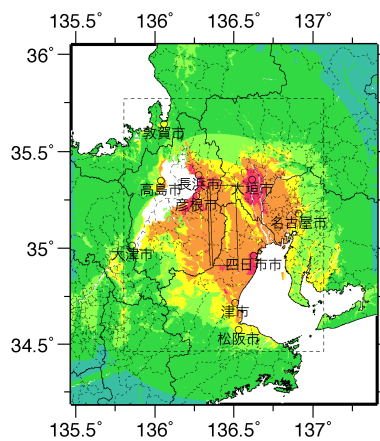
断層パラメータ	設定方法	想定鈴鹿西縁断層帯地震
		断層帯原点
活断層長さ L	長期評価による	44 km
気象庁マグニチュード M_{JMA}		7.6
地震モーメント M_0	$\log M_0 = 1.17 M_{JMA} + 10.72$	3.80E+19 Nm
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	7.0
断層モデル原点	地中の断層モデル原点位置	北緯34° 54′ 30.4″ 東経136° 21′ 57.7″
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	1 km
断層モデル長さ L_{model}	ルールに従い設定	46 km
断層モデル幅 W_{model}	ルールに従い設定	18 km
断層モデル面積 S_{model}	ルールに従い設定	828 km ²
走向 θ	長期評価の原点を結ぶ方向	N 358° E
傾斜角 δ	30-40° 東傾斜(深さ400m以浅)	35°
すべり角 γ	東側隆起の逆断層	90°
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta\sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	3.9 MPa
平均すべり量 D	$D = M_0 / (\mu S_{model})$	1.5 m
剛性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10 N/m ²
密度 ρ	震源における密度	2700.0 kg/m ³
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.4 km/s
破壊伝播速度 V_r	$V_r = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976)より)	2.4 km/s
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	1.78E+19 N·m/s ²



微視的断層モデルとその直交断面

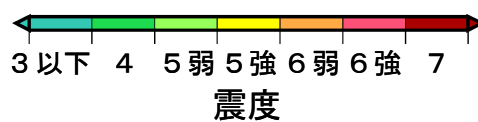


詳細法震度分布



※図中の破線範囲は詳細法による解析範囲を示す。

簡便法震度分布



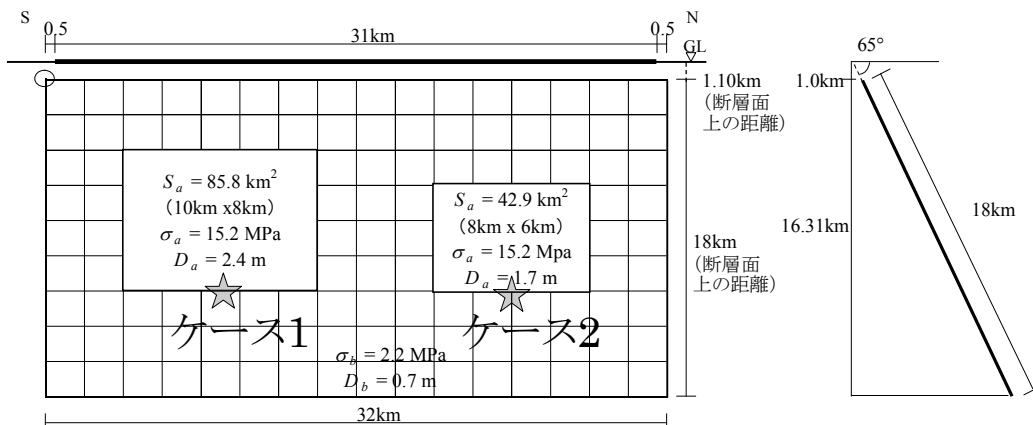
頓宮断層 (とんぐうだんそう)

地震諸元

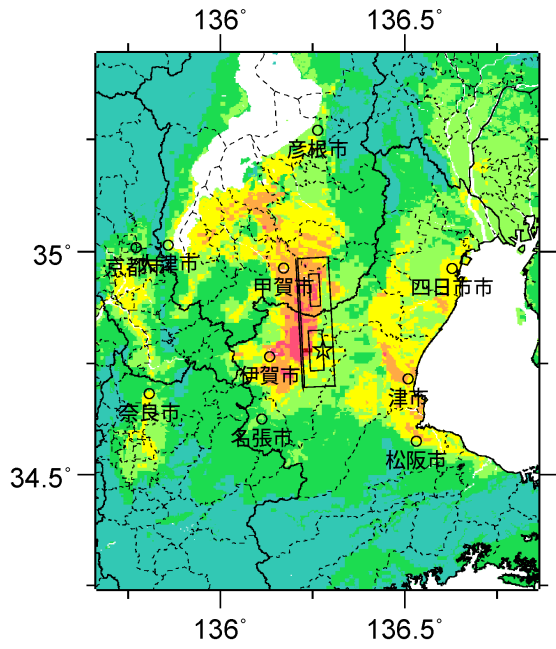
コード	断層名称	断層面のずれの向き		M_J	断層長さ	断層面の幅	断層面の傾斜角	地震発生層の深さ
7001	頓宮断層	東側隆起の逆断層	長期評価	7.3程度	約31km	不明	東傾斜 50-80度	下限 約15km
			モデル化	M_w 6.8	32km	18km	東傾斜 65度	1-17km

強震動予測のための断層モデルのパラメータ

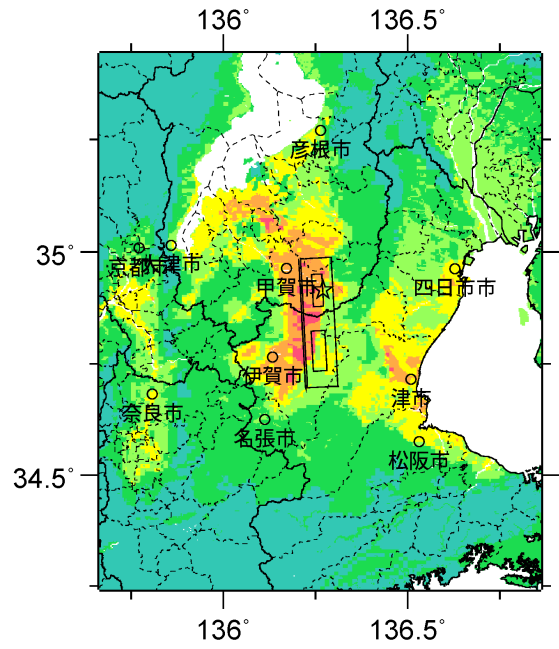
断層パラメータ	設定方法	想定頓宮断層地震
断層帯原点	長期評価による	北緯34° 42'
活断層長さ L		東経136° 13'
気象庁マグニチュード M_{JMA}		31 km
地震モーメント M_0	$\log M_0 = 1.17 M_{JMA} + 10.72$	7.3
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	1.92E+19 Nm
断層モデル原点	地中の断層モデル原点位置	6.8
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	北緯34° 41' 44.6"
断層モデル長さ L_{model}	ルールに従い設定	東経136° 13' 19.3"
断層モデル幅 W_{model}	ルールに従い設定	1 km
断層モデル面積 S_{model}	ルールに従い設定	32 km
走向 θ	長期評価の原点を結ぶ方向	18 km
傾斜角 δ	50-80° 傾斜(地表付近)	576 km ²
すべり角 γ	東側隆起の逆断層	N 357° E
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta\sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	65°
平均すべり量 D	$D = M_0 / (\mu S_{model})$	90°
剛性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	3.4 MPa
密度 ρ	震源における密度	1.1 m
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.12E+10 N/m ²
破壊伝播速度 V_r	$V_r = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976)より)	2700.0 kg/m ³
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	3.4 km/s
		2.4 km/s
		1.42E+19 N·m/s ²



微視的断層モデルとその直交断面

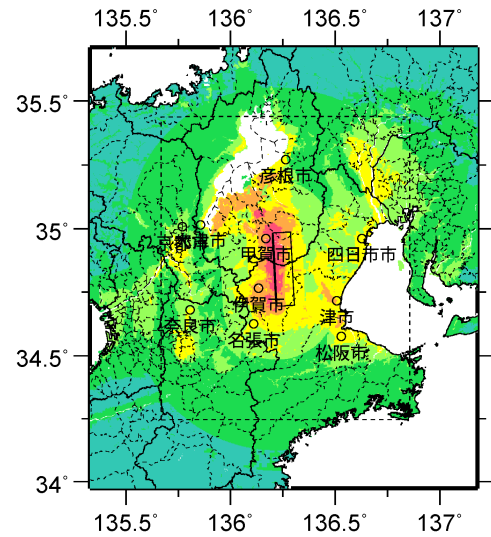


ケース 1



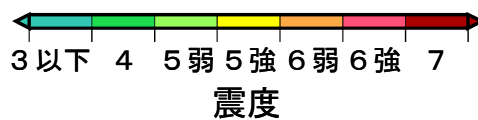
ケース 2

詳細法震度分布



※図中の破線範囲は詳細法による解析範囲を示す。

簡便法震度分布



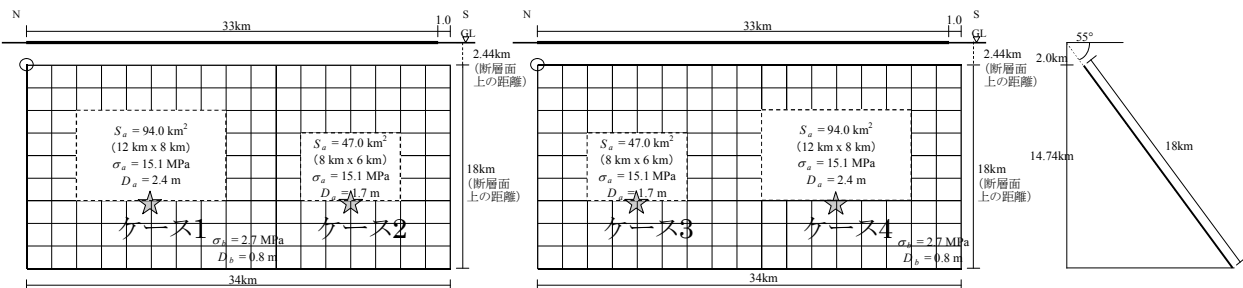
布引山地東縁断層帯西部 (ぬのびきさんちとうえんだんそうたいせいぶ)

地震諸元

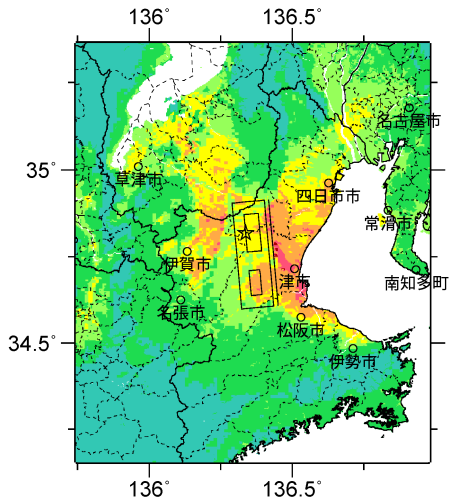
コード	断層名称	断層面のずれの向き		M_J	断層長さ	断層面の幅	断層面の傾斜角	地震発生層の深さ
7101	布引山地東縁断層帯西部	西側隆起の逆断層	長期評価	7.4程度	約33km	20km程度	西傾斜50-60度	下限約15km
			モデル化	M_w 6.8	34km	18km	西傾斜55度	2-17km

強震動予測のための断層モデルのパラメータ

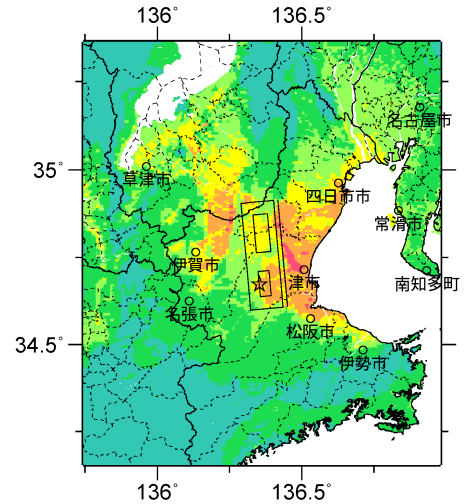
断層パラメータ	設定方法	想定布引山地東縁断層帯地震
		西部
断層帯原点	長期評価による	北緯34° 55'
活断層長さ L		東経136° 25'
気象庁マグニチュード M_{JMA}		33 km
地震モーメント M_0		7.4
モーメントマグニチュード M_w	$\log M_0 = 1.17 M_{JMA} + 10.72$	2.17E+19 Nm
	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	6.8
断層モデル原点	地中の断層モデル原点位置	北緯34° 54' 44.7"
		東経136° 24' 7.7"
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	2 km
断層モデル長さ L_{model}	ルールに従い設定	34 km
断層モデル幅 W_{model}	ルールに従い設定	18 km
断層モデル面積 S_{model}	ルールに従い設定	612 km ²
走向 θ	長期評価の原点を結ぶ方向	N 174.8° E
傾斜角 δ	50-60° 西傾斜(深さ800m以浅)	55°
すべり角 γ	西側隆起の逆断層	90°
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta\sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	3.5 MPa
平均すべり量 D	$D = M_0 / (\mu S_{model})$	1.1 m
剛性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10 N/m ²
密度 ρ	震源における密度	2700.0 kg/m ³
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.4 km/s
破壊伝播速度 V_r	$V_r = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976)より)	2.4 km/s
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	1.48E+19 N·m/s ²



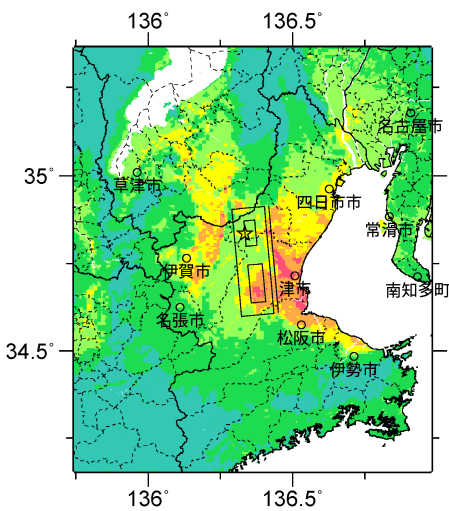
微視的断層モデルとその直交断面



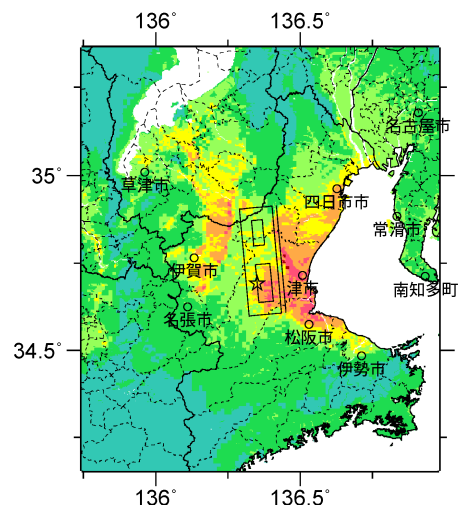
ケース 1



ケース 2

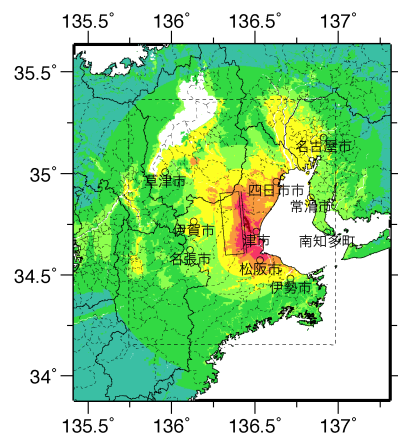


ケース 3



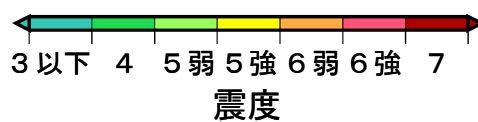
ケース 4

詳細法震度分布



※図中の破線範囲は詳細法による解析範囲を示す。

簡便法震度分布



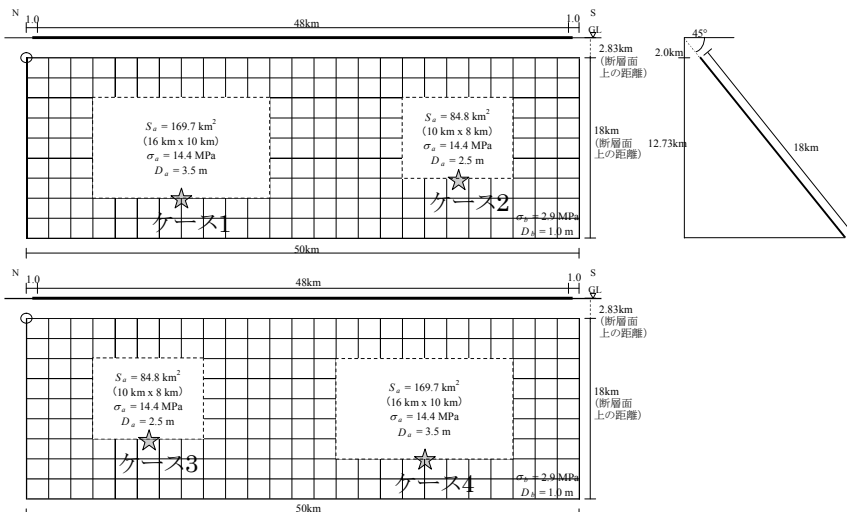
布引山地東縁断層帯東部 (ぬのびきさんちとうえんだんそうたいとうぶ)

地震諸元

コード	断層名称	断層面の ずれの 向き		M_J	断層 長さ	断層面 の幅	断層面の 傾斜角	地震発生層 の深さ
7102	布引山地 東縁断層帯 東部	西側隆起の 逆断層	長期 評価	7.6程度	約48km	不明	西傾斜 45度程度	下限 約20km
			モデル 化	M_w 7.0	50km	18km	西傾斜 45度	2-20km

強震動予測のための断層モデルのパラメータ

断層パラメータ	設定方法	想定布引山地東縁断層帯地震
		東部
断層帯原点	長期評価による	北緯34° 52'
活断層長さ L		東経136° 37'
気象庁マグニチュード M_{JMA}		48 km
地震モーメント M_0	$\log M_0 = 1.17 M_{JMA} + 10.72$	7.6
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	4.50E+19 Nm
断層モデル原点	地中の断層モデル原点位置	7.0
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	北緯34° 52' 44.1"
断層モデル長さ L_{model}	ルールに従い設定	東経136° 35' 55"
断層モデル幅 W_{model}	ルールに従い設定	2 km
断層モデル面積 S_{model}	ルールに従い設定	50 km
走向	長期評価の原点を結ぶ方向	18 km
傾斜角	45° 程度 西傾斜(地表付近)	900 km ²
すべり角	西側隆起の逆断層	N 196.6° E
静的応力降下量	$= 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	45°
平均すべり量 D	$D = M_0 / (\cdot S_{model})$	90°
剛性率	$=$	4.1 MPa
密度	震源における密度	$D = 2.5$ m
S波速度	震源におけるS波速度	$D = 1.0$ m
破壊伝播速度 V_f	$V_f = 0.72 \cdot (\text{Geller(1976)より})$	2700.0 kg/m ³
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	3.4 km/s
		2.4 km/s
		1.88E+19 N・m/s ²



微視的断層モデルとその直交断面

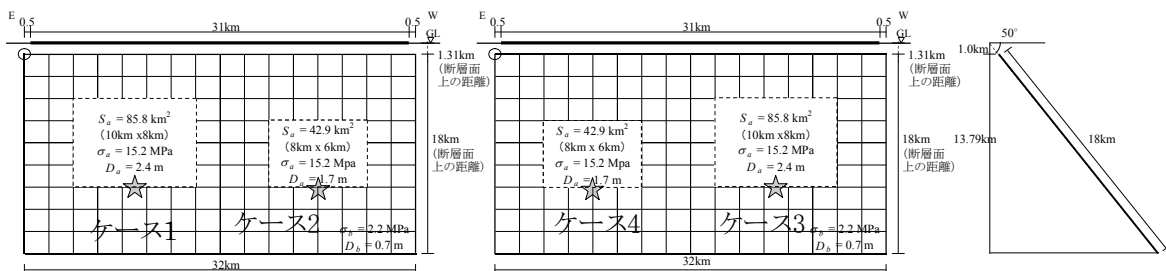
木津川断層帯 (きづがわだんそうたい)

地震諸元

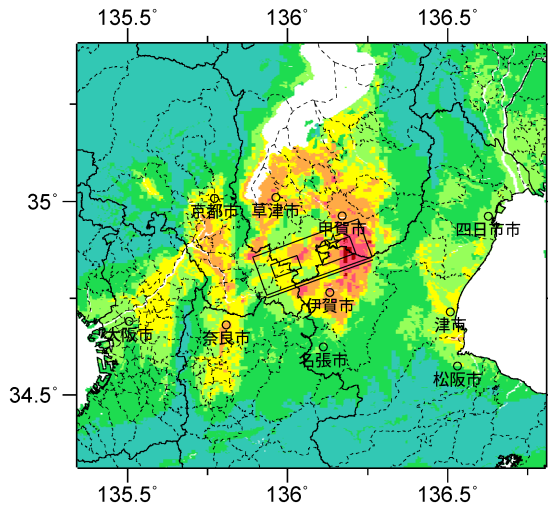
コード	断層名称	断層面のずれの向き		M_J	断層長さ	断層面の幅	断層面の傾斜角	地震発生層の深さ
7201	木津川断層帯	北側隆起の逆断層で右横ずれ成分を伴う	長期評価	7.3程度	約31km	不明	北傾斜40-60度	下限約15km
			モデル化	M_w 6.8	32km	18km	北傾斜50度	1-14km

強震動予測のための断層モデルのパラメータ

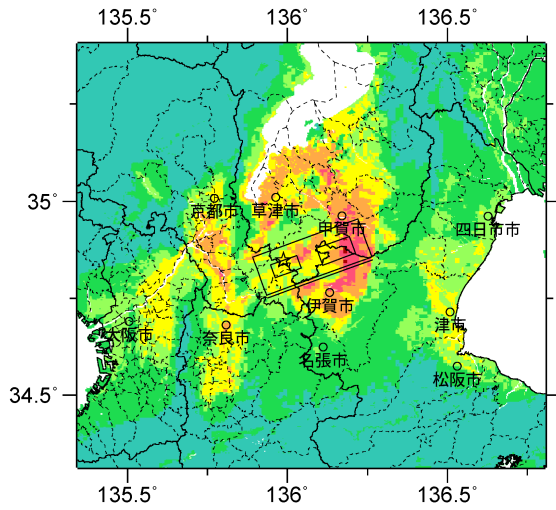
断層パラメータ	設定方法	想定木津川断層帯地震
断層帯原点	長期評価による	北緯34° 51'
		東経136° 16'
活断層長さ L		31 km
気象庁マグニチュード M_{JMA}		7.3
地震モーメント M_0	$\log M_0 = 1.17 M_{JMA} + 10.72$	1.92E+19 Nm
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	6.8
断層モデル原点	地中の断層モデル原点位置	北緯34° 51' 25.6" 東経136° 15' 48.7"
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	1 km
断層モデル長さ L_{model}	ルールに従い設定	32 km
断層モデル幅 W_{model}	ルールに従い設定	18 km
断層モデル面積 S_{model}	ルールに従い設定	576 km ²
走向 θ	長期評価の原点を結ぶ方向	N 250° E
傾斜角 δ	40-60° 北傾斜(地表付近)	50°
すべり角 γ	北側隆起の逆断層で右横ずれ成分を伴う	90°
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta\sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	3.4 MPa
平均すべり量 D	$D = M_0 / (\mu S_{model})$	1.1 m
剛性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10 N/m ²
密度 ρ	震源における密度	2700.0 kg/m ³
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.4 km/s
破壊伝播速度 V_t	$V_t = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976)より)	2.4 km/s
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	1.42E+19 N·m/s ²



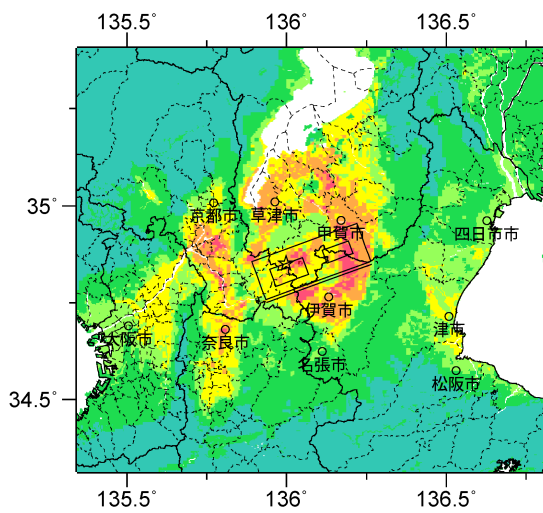
微視的断層モデルとその直交断面



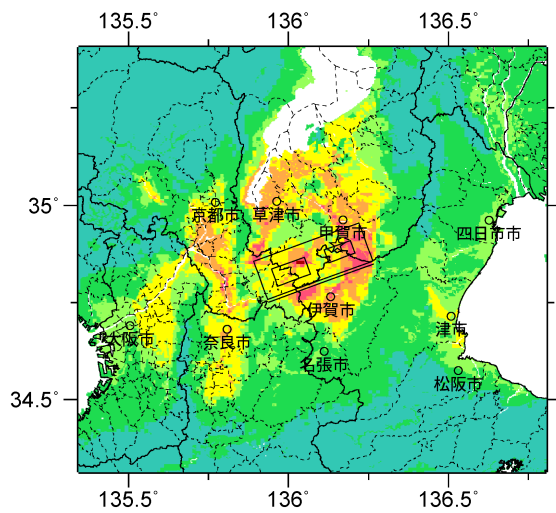
ケース 1



ケース 2

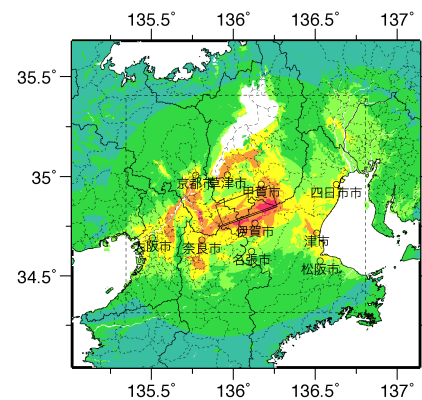


ケース 3



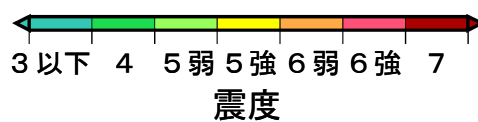
ケース 4

詳細法震度分布



※図中の破線範囲は詳細法による解析範囲を示す。

簡便法震度分布



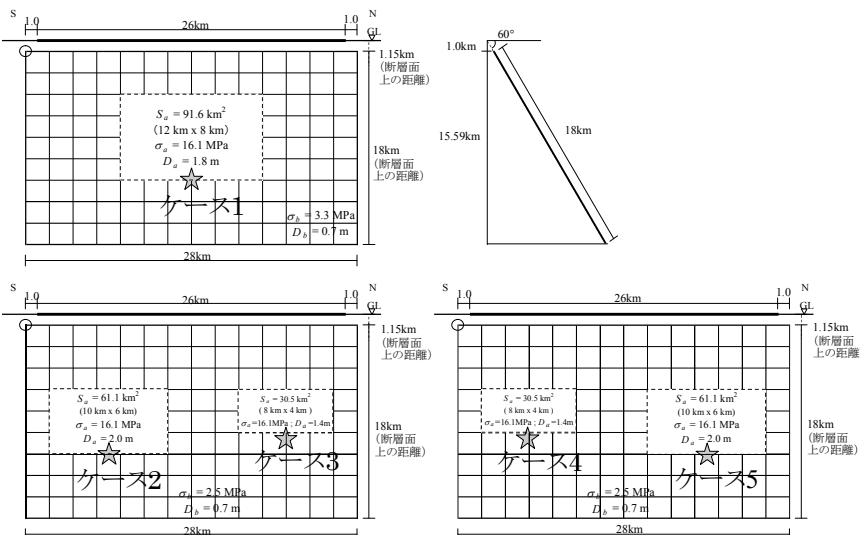
三方断層帯 (みかただんそうたい)

地震諸元

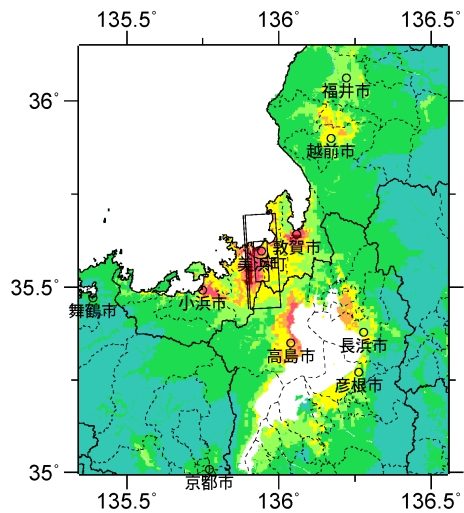
コード	断層名称	断層面のずれの向き		M_J	断層長さ	断層面の幅	断層面の傾斜角	地震発生層の深さ
7301	三方断層帯	東側隆起の逆断層	長期評価	7.2程度	約26km	不明	東傾斜高角度	下限15km程度
			モデル化	M_w 6.7	28km	18km	東傾斜60度	1-16km

強震動予測のための断層モデルのパラメータ

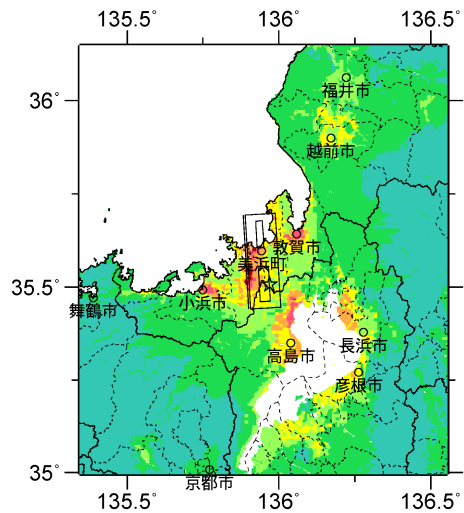
断層パラメータ	設定方法	想定三方・花折断層帯地震
		三方断層帯
断層帯原点	長期評価による	北緯35° 27'
活断層長さ L		26 km
気象庁マグニチュード M_{JMA}		7.2
地震モーメント M_0	$\log M_0 = 1.17 M_{JMA} + 10.72$	1.36E+19 Nm
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	6.7
断層モデル原点	地中の断層モデル原点位置	北緯35° 26' 28.7" 東経135° 54' 25.2"
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	1 km
断層モデル長さ L_{model}	ルールに従い設定	28 km
断層モデル幅 W_{model}	ルールに従い設定	18 km
断層モデル面積 S_{model}	ルールに従い設定	504 km ²
走向 θ	長期評価の原点を結ぶ方向	N 356.7° E
傾斜角 δ	高角度、東傾斜	60°
すべり角 γ	東側隆起の逆断層	90°
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta\sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	2.9 MPa
平均すべり量 D	$D = M_0 / (\mu S_{model})$	0.9 m
剛性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10 N/m ²
密度 ρ	震源における密度	2700.0 kg/m ³
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.4 km/s
破壊伝播速度 V_f	$V_f = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976)より)	2.4 km/s
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	1.27E+19 N·m/s ²



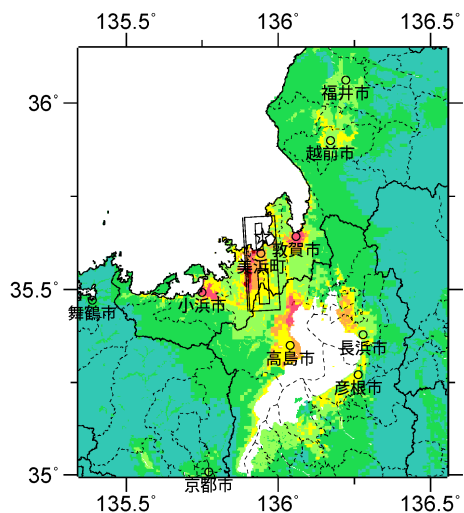
微視的断層モデルとその直交断面



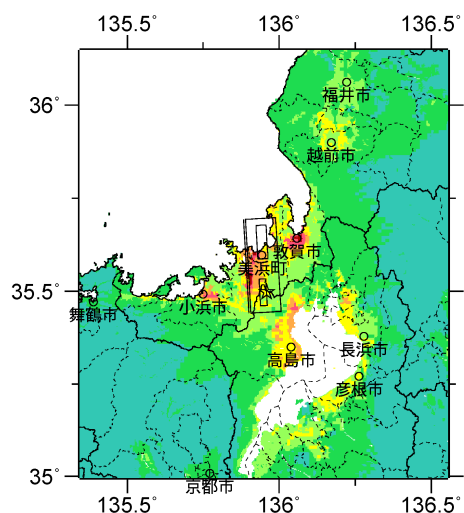
ケース 1



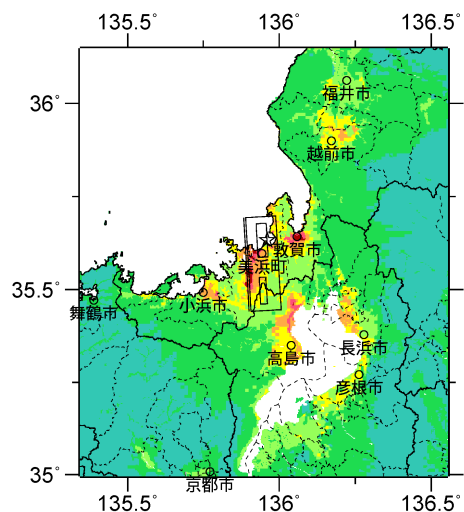
ケース 2



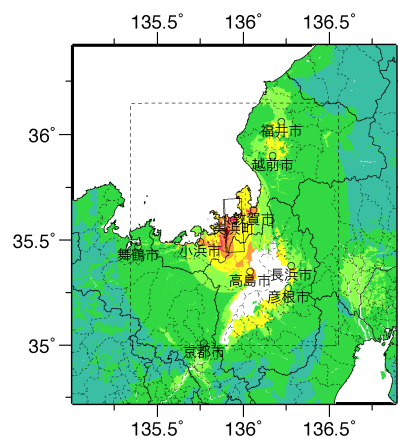
ケース 3



ケース 4



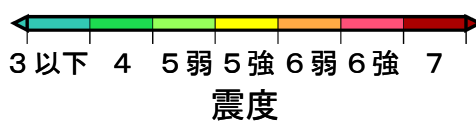
ケース 5



※図中の破線範囲は詳細法による解析範囲を示す。

詳細法震度分布

簡便法震度分布



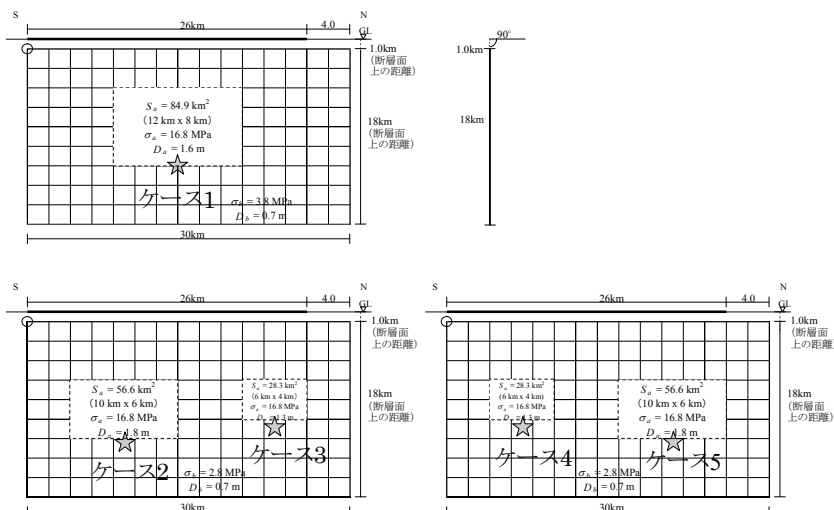
花折断層帯北部 (はなおれだんそうたいほくぶ)

地震諸元

コード	断層名称	断層面のずれの向き		M_j	断層長さ	断層面の幅	断層面の傾斜角	地震発生層の深さ
7302	花折断層帯北部	右横ずれ断層	長期評価	7.2程度	約26km	約15-20km	ほぼ垂直	下限 15-20km程度
			モデル化	M_w 6.7	30km	18km	90度	1-20km

強震動予測のための断層モデルのパラメータ

断層パラメータ	設定方法	想定三方・花折断層帯地震
		花折断層帯北部
断層帯原点	長期評価による	北緯35° 11'
活断層長さ L		東経135° 52'
気象庁マグニチュード M_{JMA}		26 km
地震モーメント M_0	$\log M_0 = 1.17 M_{JMA} + 10.72$	7.2
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	1.36E+19 Nm
断層モデル原点	地中の断層モデル原点位置	6.7
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	北緯35° 10' 58.8"
断層モデル長さ L_{model}	ルールに従い設定	東経135° 52' 1.2"
断層モデル幅 W_{model}	ルールに従い設定	1 km
断層モデル面積 S_{model}	ルールに従い設定	30 km
走向 θ	長期評価の原点を結ぶ方向	18 km
傾斜角 δ	ほぼ垂直(地表近傍)	540 km ²
すべり角 γ	右横ずれ断層	N 16.3° E
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta\sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	90°
平均すべり量 D	$D = M_0 / (\mu S_{model})$	180°
剛性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	2.7 MPa
密度 ρ	震源における密度	0.8 m
S波速度 β	震源におけるS波速度	$\mu = 3.12E+10 \text{ N/m}^2$
破壊伝播速度 V_r	$V_r = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976)より)	2700.0 kg/m ³
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	3.4 km/s
		2.4 km/s
		1.27E+19 N·m/s ²



微視的断層モデルとその直交断面

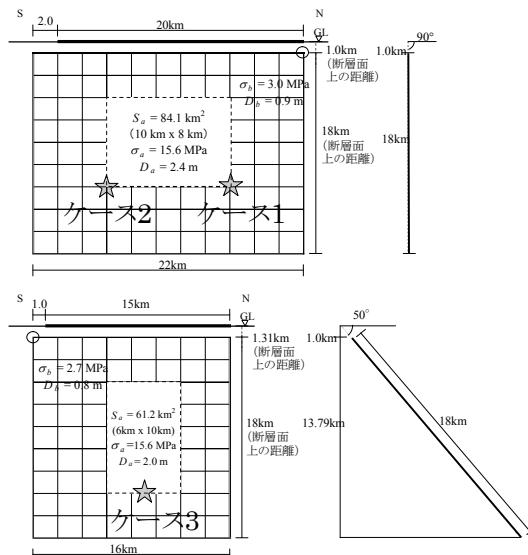
花折断層帯中南部 (はなおれだんそうたいちゅうなんぶ)

地震諸元

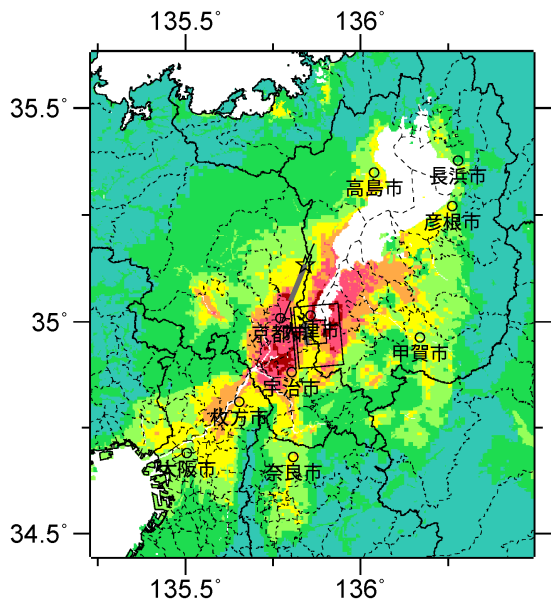
コード	断層名称	断層面のずれの向き		M_j	断層長さ	断層面の幅	断層面の傾斜角	地震発生層の深さ
7303	花折断層帯中南部	中部: 右横ずれ断層 南部: 東側隆起の逆断層 一部西側隆起	長期評価	7.3程度	中部約20km 南部約15km	中部 15-20km 南部 20-45km	中:ほぼ垂直 南:50,25-55度	下限 15-20km 程度
			モデル化	M_w 6.9	22km 16km	18km 18km	90度 東傾斜50度	1-20km

強震動予測のための断層モデルのパラメータ

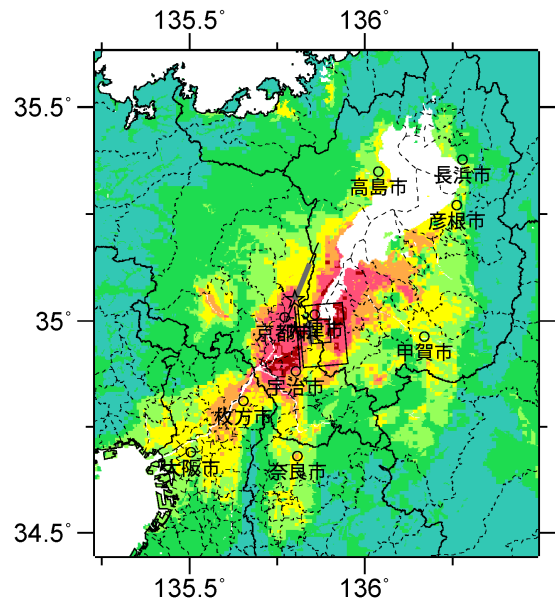
断層パラメータ	設定方法	想定三方・花折断層帯地震	
		中部	南部
断層帯原点	長期評価による	北緯35° 11'	
活断層長さ L		東経135° 52'	
気象庁マグニチュード M_{JMA}		35 km	
地震モーメント M_0	$\log M_0 = 1.17 M_{JMA} + 10.72$	7.4	
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	2.43E+19 Nm	
断層モデル原点	地中の断層モデル原点位置	北緯35° 10' 58.8"	北緯34° 53' 23.6"
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	東経135° 52' 1.2"	東経135° 49' 30.3"
断層モデル長さ L_{model}	ルールに従い設定	1 km	1 km
断層モデル幅 W_{model}	ルールに従い設定	22 km	16 km
断層モデル面積 S_{model}	ルールに従い設定	18 km	18 km
走向 θ	長期評価の原点を結ぶ方向	396 km ²	288 km ²
傾斜角 δ	中部:ほぼ垂直 南部:東傾斜50°程度(桃山)、25~55°程度(黄鬘)	N 202.3° E	N 354.8° E
すべり角 γ	中部:右横ずれ断層(東側隆起の上下成分を伴う) 南部:東側隆起の逆断層(一部西側隆起の逆断層)	90°	50°
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta\sigma = 7/16 \cdot M_0 / R^3$	180°	90°
平均すべり量 D	$D = M_0 / (\mu S_{model})$	3.3 MPa	
剛性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	1.1 m	
密度 ρ	震源における密度	3.12E+10 N/m ²	
S波速度 β	震源におけるS波速度	2700.0 kg/m ³	
破壊伝播速度 V_f	$V_f = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976)より)	3.4 km/s	
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1.3}$	2.4 km/s	
		1.54E+19 N·m/s ²	



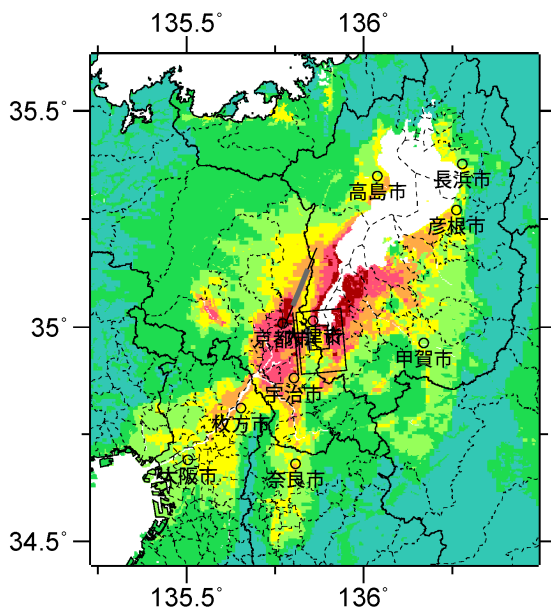
微視的断層モデルとその直交断面



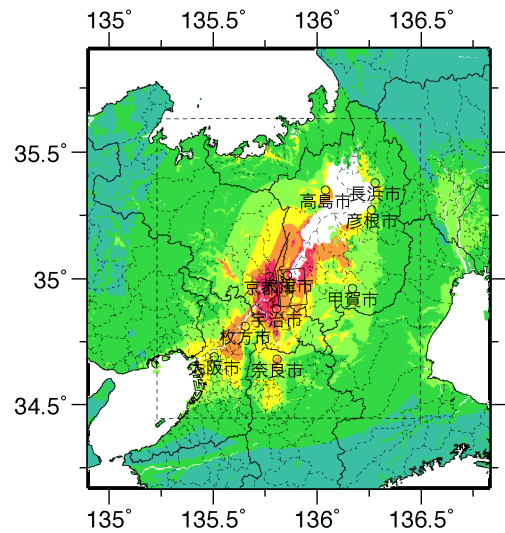
ケース 1



ケース 2



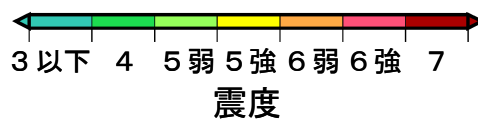
ケース 3



※図中の破線範囲は詳細法による解析範囲を示す。

詳細法震度分布

簡便法震度分布



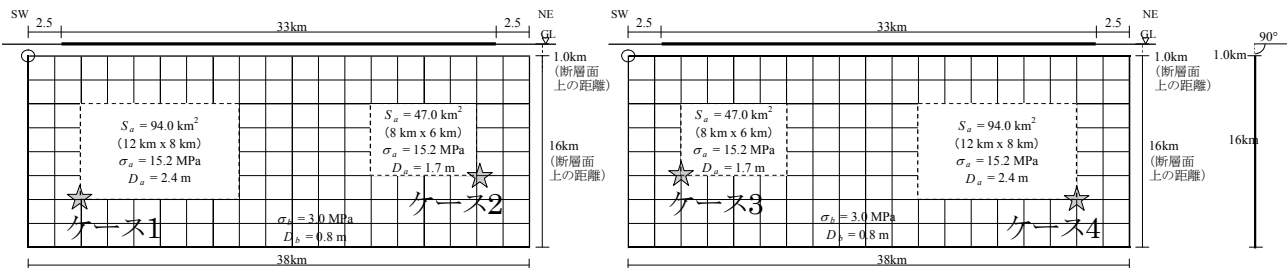
山田断層帯主部 (やまだだんそうたいしゅぶ)

地震諸元

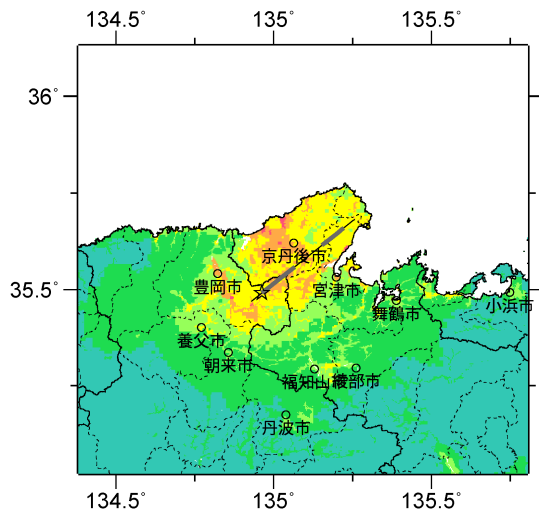
コード	断層名称	断層面のずれの向き		M_J	断層長さ	断層面の幅	断層面の傾斜角	地震発生層の深さ
7401	山田断層帯主部	北西側隆起の成分を伴う右横ずれ断層	長期評価	7.4程度	約33km	不明	北西傾斜	下限約10km
			モデル化	M_w 6.8	38km	16km	90度	1-15km

強震動予測のための断層モデルのパラメータ

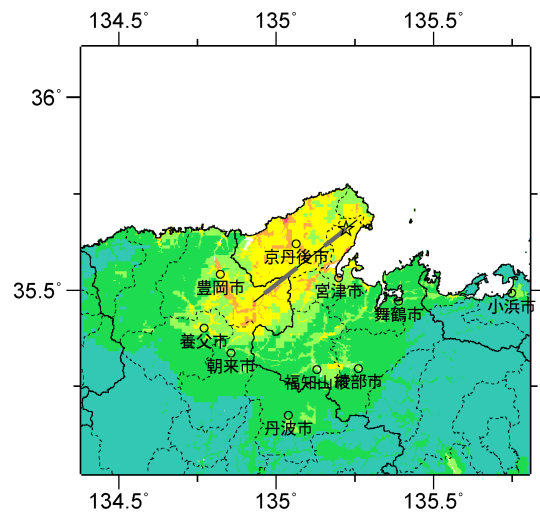
断層パラメータ	設定方法	想定山田断層帯地震
		主部
断層帯原点	長期評価による	北緯35° 29'
		東経134° 57'
活断層長さ L		33 km
気象庁マグニチュード M_{JMA}		7.4
地震モーメント M_0	$\log M_0 = 1.17 M_{JMA} + 10.72$	2.17E+19 Nm
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	6.8
断層モデル原点	地中の断層モデル原点位置	北緯35° 28' 8.4" 東経134° 55' 42.2"
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	1 km
断層モデル長さ L_{model}	ルールに従い設定	38 km
断層モデル幅 W_{model}	ルールに従い設定	16 km
断層モデル面積 S_{model}	ルールに従い設定	608 km ²
走向 θ	長期評価の原点を結ぶ方向	N 51.6° E
傾斜角 δ	北西傾斜(地表付近)	90°
すべり角 γ	北西側隆起の成分を伴う右横ずれ断層	180°
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta\sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	3.5 MPa
平均すべり量 D	$D = M_0 / (\mu S_{model})$	1.1 m
剛性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10 N/m ²
密度 ρ	震源における密度	2700.0 kg/m ³
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.4 km/s
破壊伝播速度 V_t	$V_t = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976)より)	2.4 km/s
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	1.48E+19 N·m/s ²



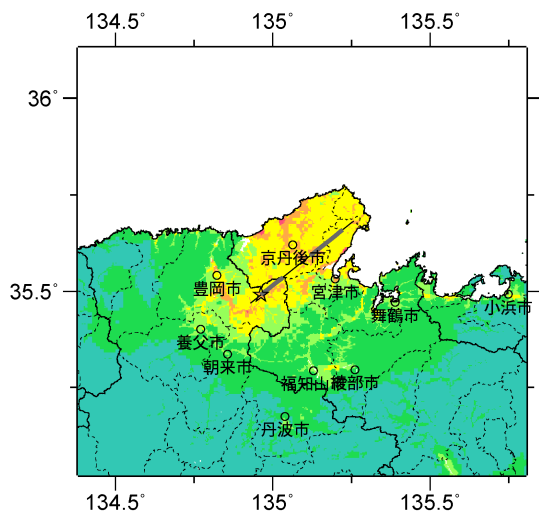
微視的断層モデルとその直交断面



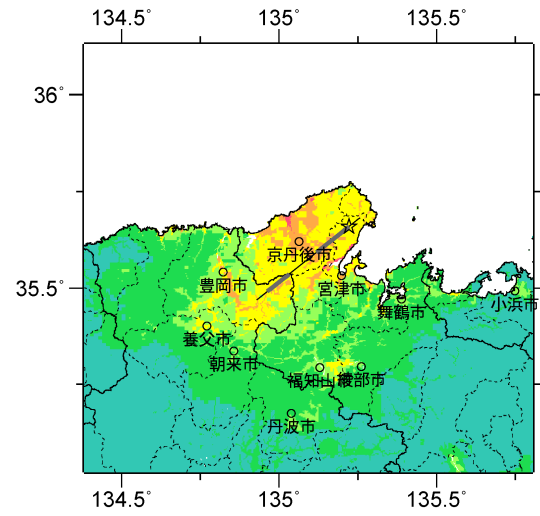
ケース 1



ケース 2

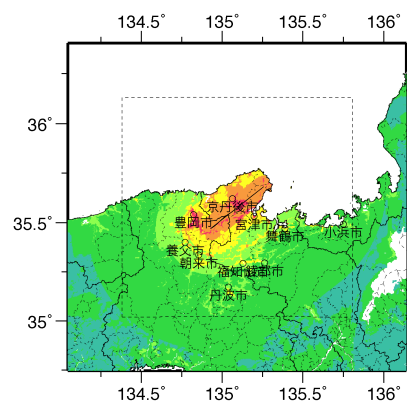


ケース 3



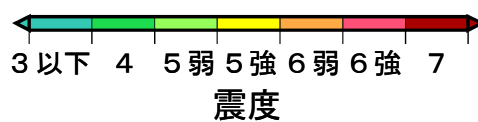
ケース 4

詳細法震度分布



※図中の破線範囲は詳細法による解析範囲を示す。

簡便法震度分布



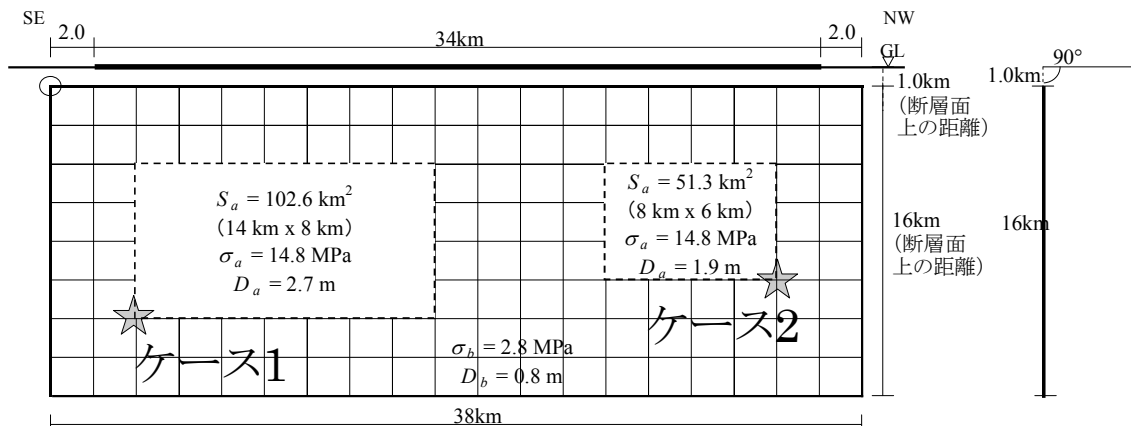
郷村断層帯 (ごうむらだんそうたい)

地震諸元

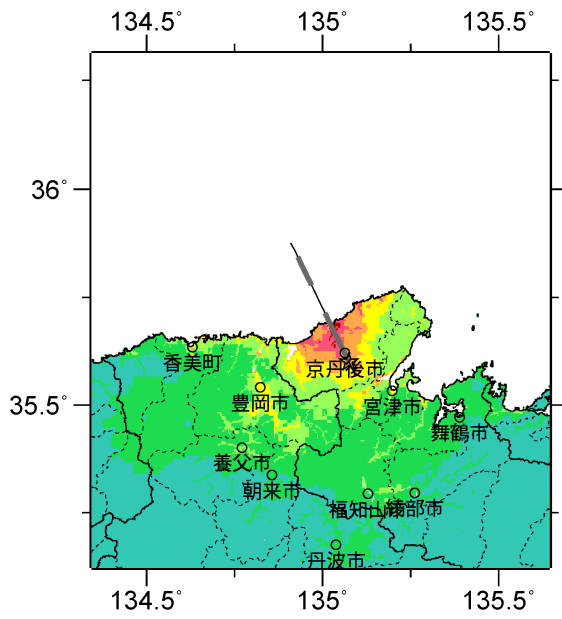
コード	断層名称	断層面のずれの向き		M_J	断層長さ	断層面の幅	断層面の傾斜角	地震発生層の深さ
7402	郷村断層帯	南西側隆起の成分を伴う左横ずれ断層	長期評価	7.4程度以上	約34km以上	15km程度	南西傾斜高角度	下限約15km
			モデル化	M_w 6.8	38km	16km	90度	1-16km

強震動予測のための断層モデルのパラメータ

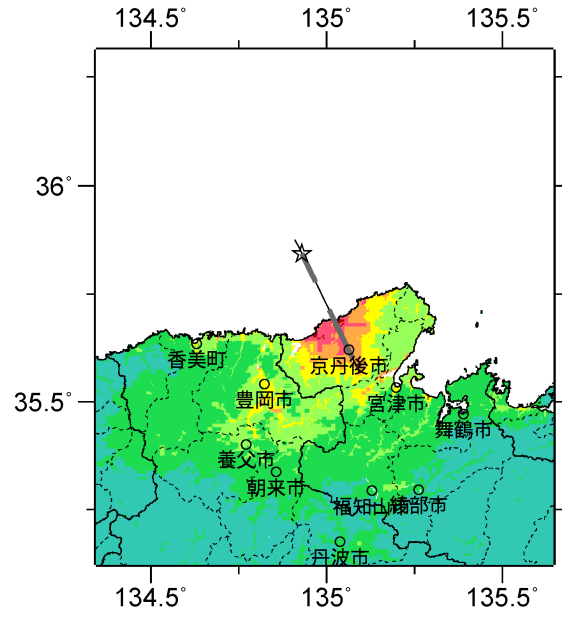
断層パラメータ	設定方法	想定山田断層帯地震
		郷村断層帯
断層帯原点	長期評価による	北緯35° 35'
活断層長さ L		東経135° 5'
気象庁マグニチュード M_{JMA}		34 km
地震モーメント M_0	$\log M_0 = 1.17 M_{JMA} + 10.72$	7.4
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	2.30E+19 Nm
断層モデル原点	地中の断層モデル原点位置	6.8
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	北緯35° 34' 2.1"
断層モデル長さ L_{model}	ルールに従い設定	東経135° 5' 37.7"
断層モデル幅 W_{model}	ルールに従い設定	1 km
断層モデル面積 S_{model}	ルールに従い設定	38 km
走向 θ	長期評価の原点を結ぶ方向	16 km
傾斜角 δ	高角度	608 km ²
すべり角 γ	南西側隆起の成分を伴う左横ずれ断層	N 334° E
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta\sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	90°
平均すべり量 D	$D = M_0 / (\mu S_{model})$	0°
剛性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	3.7 MPa
密度 ρ	震源における密度	1.2 m
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.12E+10 N/m ²
破壊伝播速度 V_r	$V_r = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976)より)	2700.0 kg/m ³
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	3.4 km/s
		2.4 km/s
		1.51E+19 N·m/s ²



微視的断層モデルとその直交断面

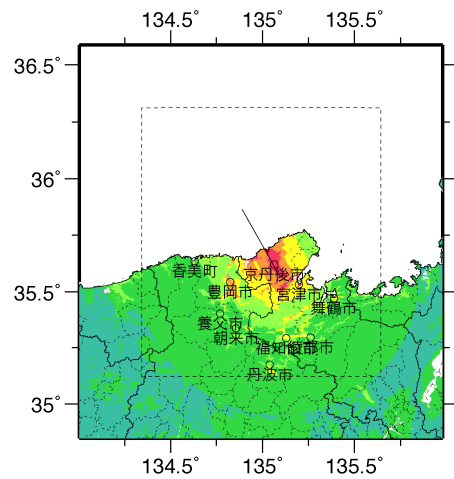


ケース 1



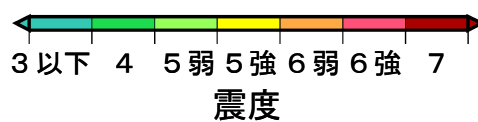
ケース 2

詳細法震度分布



※図中の破線範囲は詳細法による解析範囲を示す。

簡便法震度分布



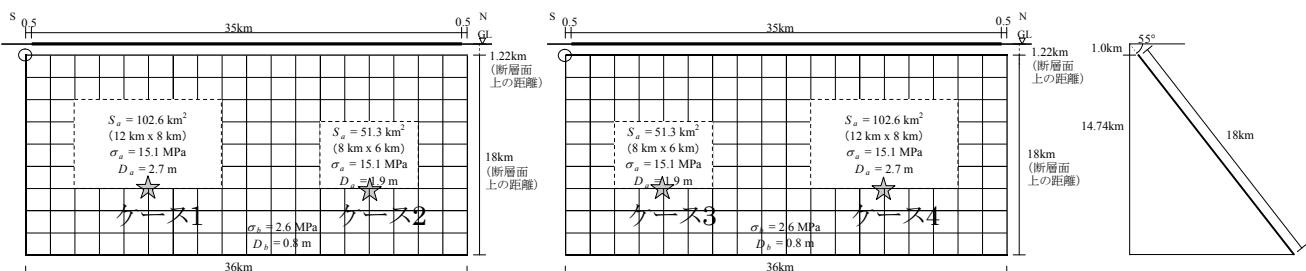
奈良盆地東縁断層帯 (ならぼんちとうえんだんそうたい)

地震諸元

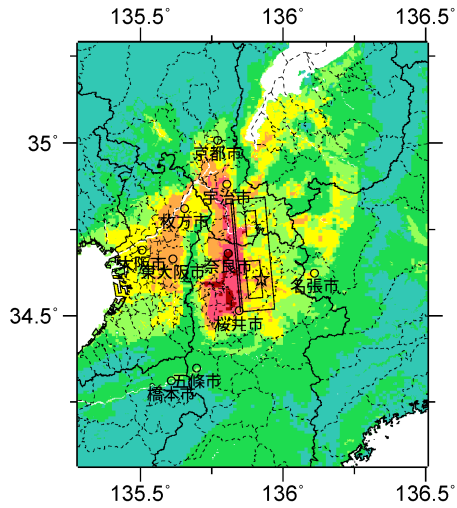
コード	断層名称	断層面のずれの向き		M_J	断層長さ	断層面の幅	断層面の傾斜角	地震発生層の深さ
7501	奈良盆地東縁断層帯	東側隆起の逆断層	長期評価	7.4程度	約35km	不明	東傾斜50-60度	下限15km程度
			モデル化	M_w 6.9	36km	18km	東傾斜55度	1-15km

強震動予測のための断層モデルのパラメータ

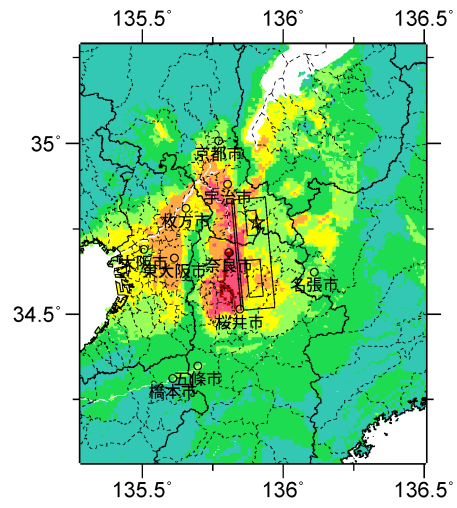
断層パラメータ	設定方法	想定奈良盆地東縁断層帯地震
断層帯原点	長期評価による	北緯34° 31'
活断層長さ L		東経135° 51'
気象庁マグニチュード M_{JMA}		35 km
地震モーメント M_0		7.4
モーメントマグニチュード M_w	$\log M_0 = 1.17 M_{JMA} + 10.72$	2.43E+19 Nm
断層モデル原点	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	6.9
断層モデル原点	地中の断層モデル原点位置	北緯34° 30' 43.4"
断層モデル上端深さ		東経135° 51' 29.1"
断層モデル長さ L_{model}	S波速度を参考に設定	1 km
断層モデル幅 W_{model}	ルールに従い設定	36 km
断層モデル面積 S_{model}	ルールに従い設定	18 km
走向 θ	ルールに従い設定	648 km ²
傾斜角 δ	長期評価の原点を結ぶ方向	N 355° E
すべり角 γ	50-60° 東傾斜(地下600m以浅)	55°
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	東側隆起の逆断層	90°
平均すべり量 D	$\Delta\sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	3.6 MPa
剛性率 μ	$D = M_0 / (\mu S_{model})$	1.2 m
密度 ρ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10 N/m ²
S波速度 β	震源における密度	2700.0 kg/m ³
破壊伝播速度 V_r	震源におけるS波速度	3.4 km/s
短周期レベル	$V_r = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976)より)	2.4 km/s
	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	1.54E+19 N·m/s ²



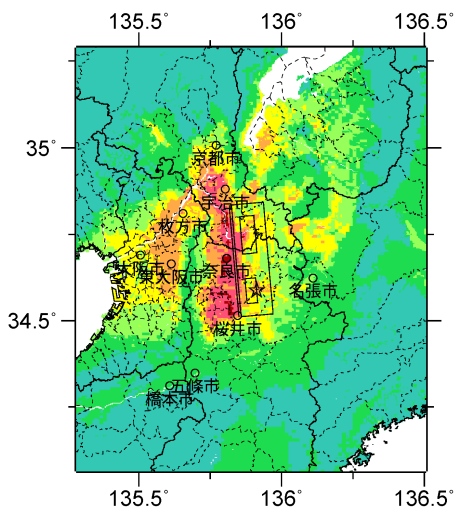
微視的断層モデルとその直交断面



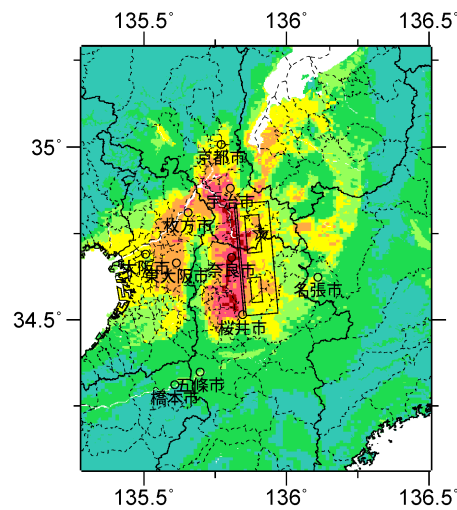
ケース 1



ケース 2

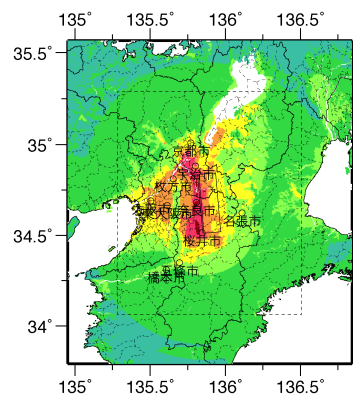


ケース 3



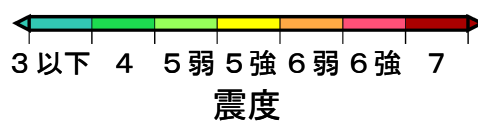
ケース 4

詳細法震度分布



※図中の破線範囲は詳細法による解析範囲を示す。

簡便法震度分布



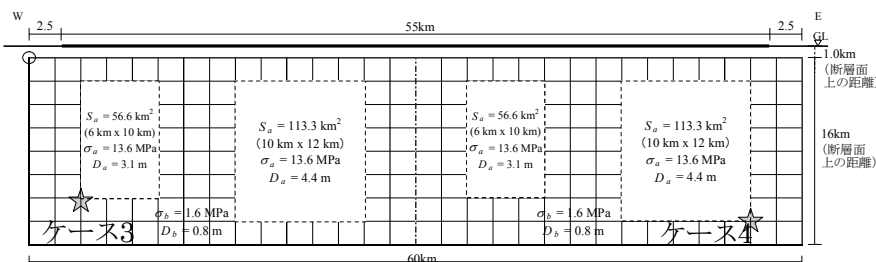
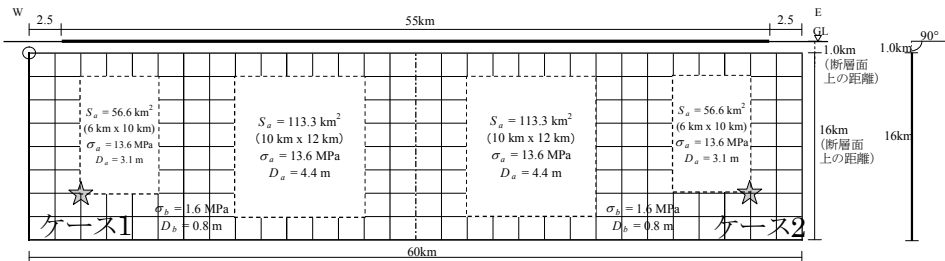
有馬一高槻断層帯 (ありまーたかつきだんそうたい)

地震諸元

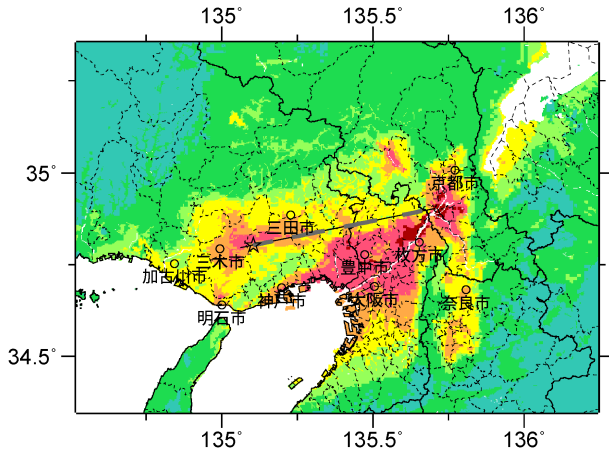
コード	断層名称	断層面の のずれ の向き		M_J	断層 長さ	断層面 の幅	断層面の 傾斜角	地震発生 層の 深さ
7601	有馬一高槻 断層帯	右横ずれ断層 上下変位伴う	長期 評価	7.5±0.5	約55km	不明	北傾斜 高角	不明
			モデ ル化	M_w 7.1	60km	16km	90度	1-16km

強震動予測のための断層モデルのパラメータ

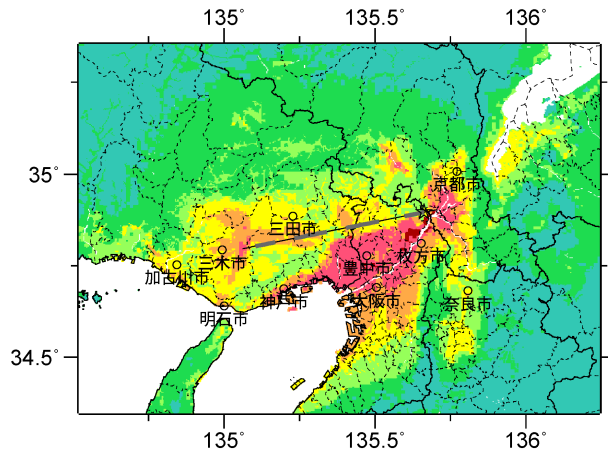
断層パラメータ	設定方法	想定有馬-高槻断層帯地震	
		西側	東側
断層帯原点	長期評価による	北緯34° 54'	
活断層長さ L		東経135° 41'	
気象庁マグニチュード M_{JMA}		55 km	
地震モーメント M_0	$\log M_0 = 1.17 M_{JMA} + 10.72$	5.87E+19 Nm	
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	7.1	
断層モデル原点	地中の断層モデル原点位置	北緯34° 47' 47.2"	北緯34° 50' 59.8"
		東経135° 3' 41.6"	東経135° 22' 59.7"
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	1 km	1 km
断層モデル長さ L_{model}	断層形状に従い設定	30 km	30 km
断層モデル幅 W_{model}	ルールに従い設定	16 km	16 km
断層モデル面積 S_{model}	ルールに従い設定	480 km ²	480 km ²
走向 θ	長期評価の原点と屈曲点を結ぶ方向	N 78.6° E	N 78.6° E
傾斜角 δ	高角北傾斜	90°	90°
すべり角 γ	右横ずれ。上下成分を伴う	180°	180°
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta\sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	4.8 MPa	
平均すべり量 D	$D = M_0 / (\mu S_{model})$	2.0 m	
剛性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10 N/m ²	
密度 ρ	震源における密度	2700.0 kg/m ³	
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.4 km/s	
破壊伝播速度 V_r	$V_r = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976)より)	2.4 km/s	
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	2.06E+19 N·m/s ²	



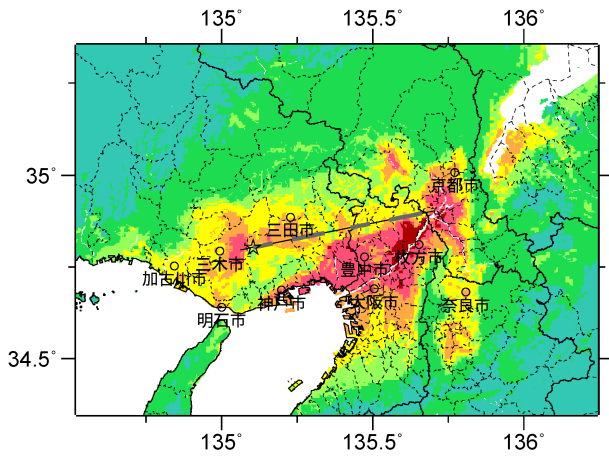
微視的断層モデルとその直交断面



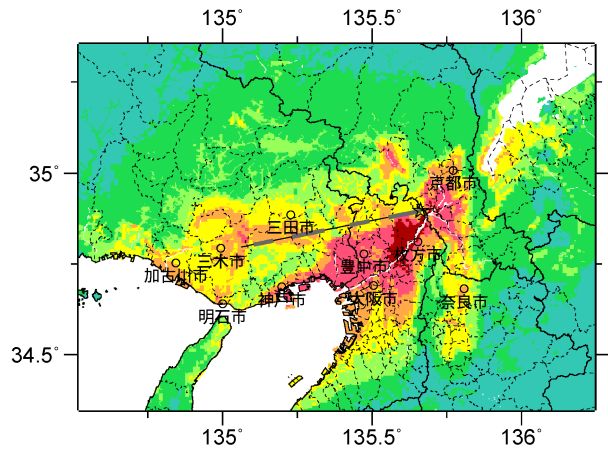
ケース 1



ケース 2

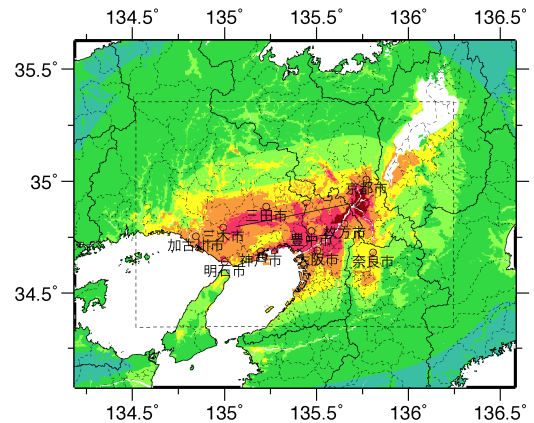


ケース 3



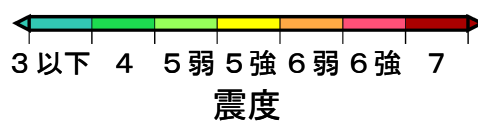
ケース 4

詳細法震度分布



※図中の破線範囲は詳細法による解析範囲を示す。

簡便法震度分布



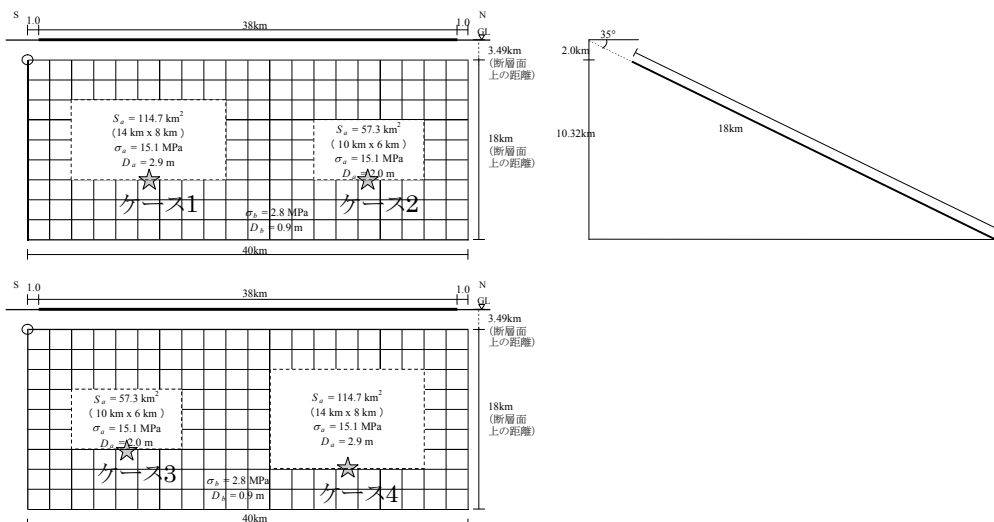
生駒断層帯 (いこまだんそうたい)

地震諸元

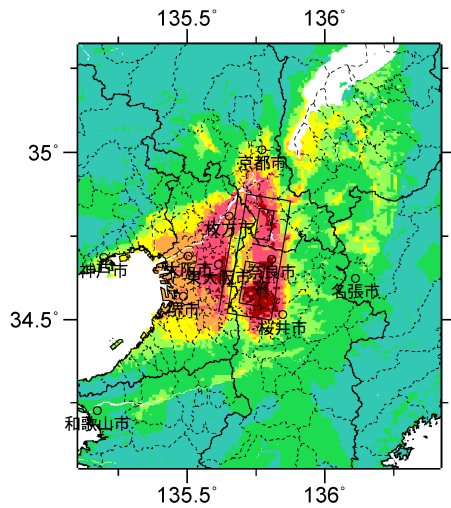
コード	断層名称	断層面のずれの向き		M_J	断層長さ	断層面の幅	断層面の傾斜角	地震発生層の深さ
7701	生駒断層帯	東側隆起の逆断層	長期評価	7.0-7.5程度	約38km	不明	東傾斜30-40度	下限15km程度
			モデル化	M_w 6.9	40km	18km	東傾斜35度	2-15km

強震動予測のための断層モデルのパラメータ

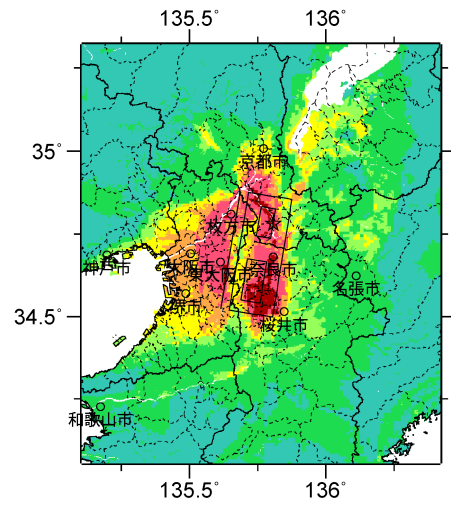
断層パラメータ	設定方法	想定生駒断層帯地震
断層帯原点	長期評価による	北緯34° 32'
活断層長さ L		東経135° 37'
気象庁マグニチュード M_{JMA}		38 km
地震モーメント M_0	$\log M_0 = 1.17 M_{JMA} + 10.72$	7.5
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	2.85E+19 Nm
断層モデル原点	地中の断層モデル原点位置	6.9
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	北緯34° 31' 12.7"
断層モデル長さ L_{model}	ルールに従い設定	東経135° 38' 44.2"
断層モデル幅 W_{model}	ルールに従い設定	2 km
断層モデル面積 S_{model}	ルールに従い設定	40 km
走向 θ	長期評価の原点を結ぶ方向	18 km
傾斜角 δ	東傾斜(地下400mで浅斜30-40°程度)	720 km ²
すべり角 γ	東側隆起の逆断層	N 9.4° E
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta\sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	35°
平均すべり量 D	$D = M_0 / (\mu S_{model})$	90°
剛性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	3.6 MPa
密度 ρ	震源における密度	1.3 m
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.12E+10 N/m ²
破壊伝播速度 V_r	$V_r = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976)より)	2700.0 kg/m ³
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	3.4 km/s
		2.4 km/s
		1.62E+19 N·m/s ²



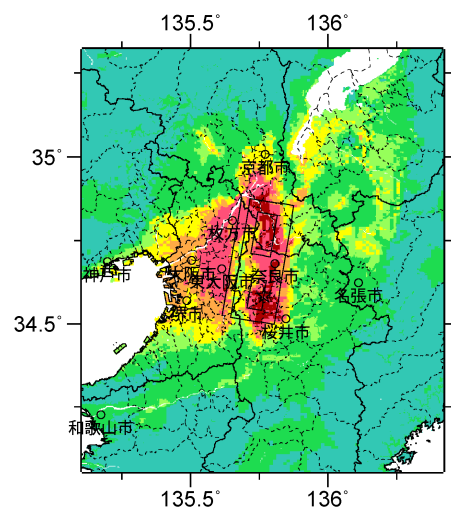
微視的断層モデルとその直交断面



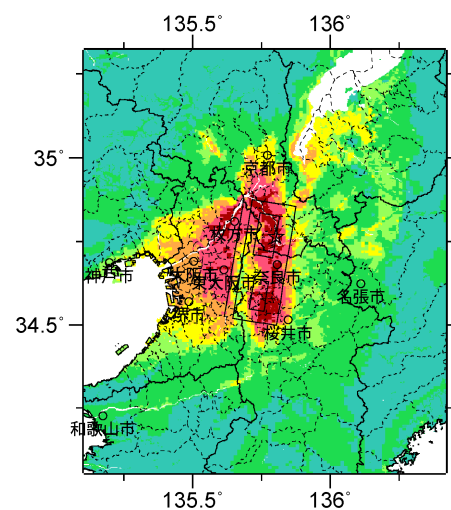
ケース 1



ケース 2

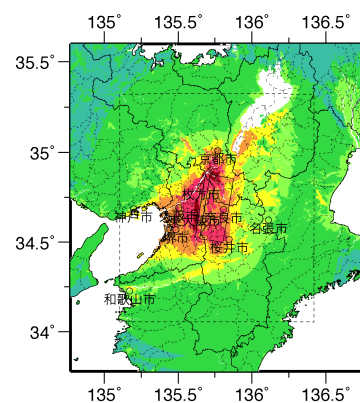


ケース 3



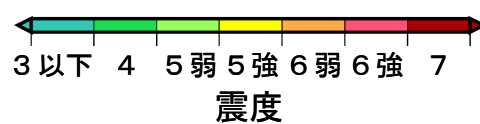
ケース 4

詳細法震度分布



※図中の破線範囲は詳細法による解析範囲を示す。

簡便法震度分布



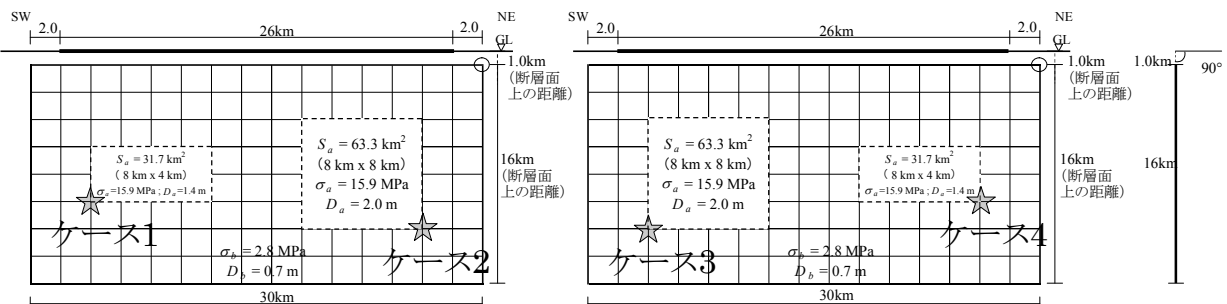
上林川断層 (かんばやしがわだんそう)

地震諸元

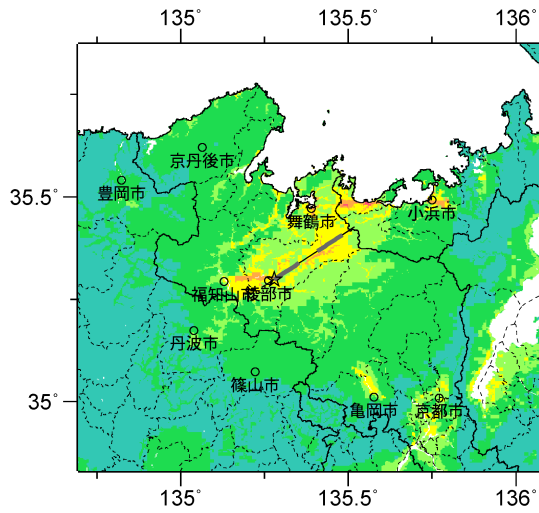
コード	断層名称	断層面の のずれ の向き		M_J	断層 長さ	断層面 の幅	断層面の 傾斜角	地震発生層 の深さ
7801	上林川断層	右横ずれ断層 (北西側隆起 成分を伴う)	長期 評価	7.2程度	約26km	不明	高角度	下限 約15km
			モデル 化	M_w 6.7	30km	16km	90度	1-15km

強震動予測のための断層モデルのパラメータ

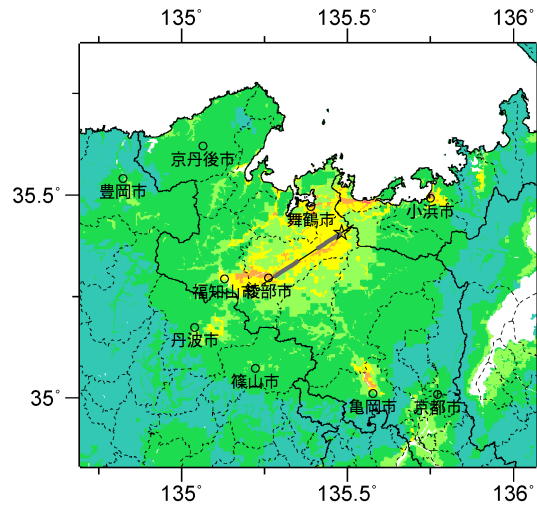
断層パラメータ	設定方法	想定三峠・京都西山断層帯地震
		上林川断層
断層帯原点	長期評価による	北緯35° 25'
活断層長さ L		東経135° 30'
気象庁マグニチュード M_{JMA}		26 km
地震モーメント M_0	$\log M_0 = 1.17 M_{JMA} + 10.72$	7.2
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	1.36E+19 Nm
断層モデル原点	地中の断層モデル原点位置	6.7
断層モデル上端深さ		北緯35° 25' 36.7"
断層モデル長さ L_{model}	S波速度を参考に設定	東経135° 31' 6.5"
断層モデル幅 W_{model}	ルールに従い設定	1 km
断層モデル面積 S_{model}	ルールに従い設定	30 km
走向 θ	長期評価の原点を結ぶ方向	16 km
傾斜角 δ	高角度(地表付近)	480 km ²
すべり角 γ	右横ずれ断層(北西側隆起の成分を伴う)	N 236.9° E
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta\sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	90°
平均すべり量 D	$D = M_0 / (\mu S_{model})$	180°
剛性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	3.1 MPa
密度 ρ	震源における密度	0.9 m
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.12E+10 N/m ²
破壊伝播速度 V_r	$V_r = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976)より)	2700.0 kg/m ³
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	3.4 km/s
		2.4 km/s
		1.27E+19 N・m/s ²



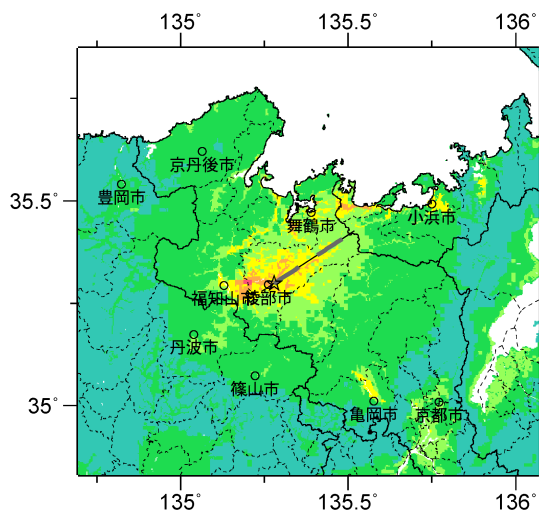
微視的断層モデルとその直交断面



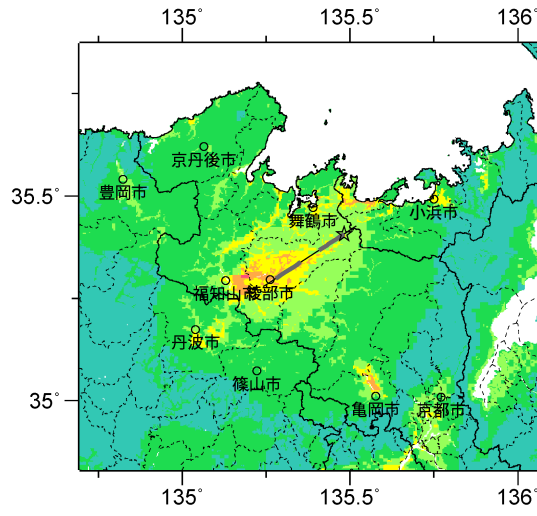
ケース 1



ケース 2

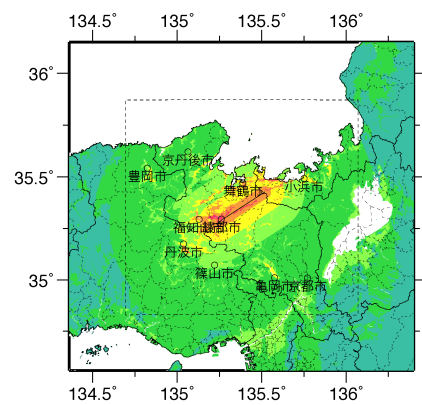


ケース 3



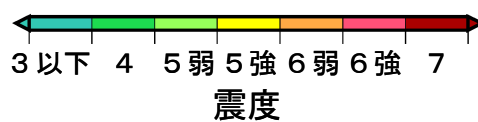
ケース 4

詳細法震度分布



※図中の破線範囲は詳細法による解析範囲を示す。

簡便法震度分布



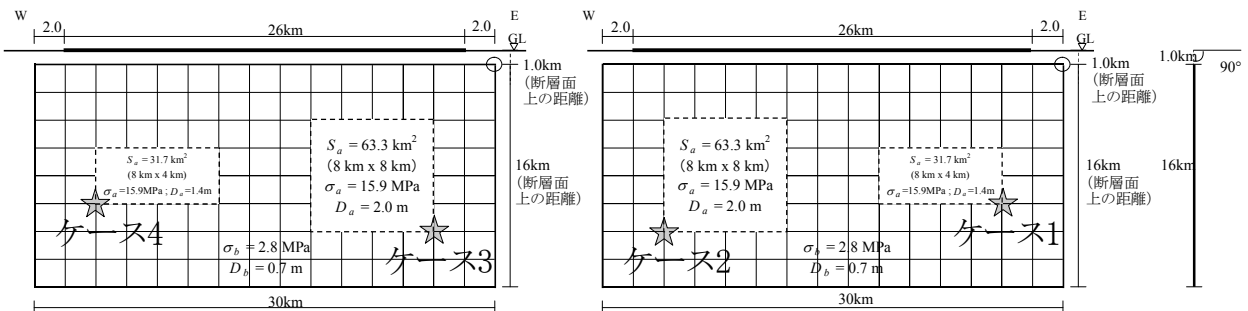
三峠断層 (みとけだんそう)

地震諸元

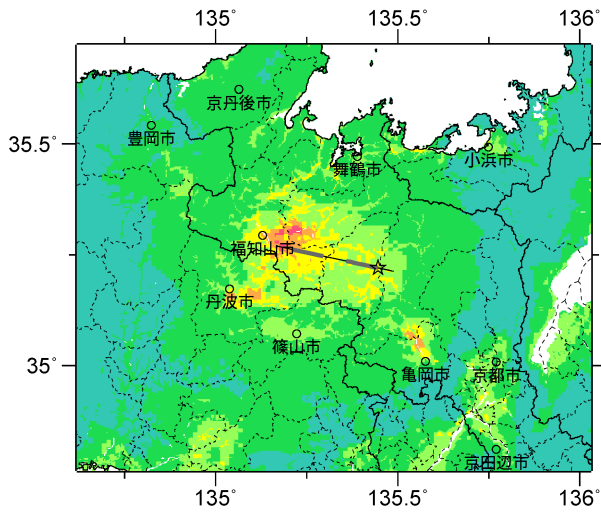
コード	断層名称	断層面のずれの向き		M_j	断層長さ	断層面の幅	断層面の傾斜角	地震発生層の深さ
7802	三峠断層	左横ずれ断層 (北東側隆起成分を伴う)	長期評価	7.2程度	約26km	不明	高角度	下限 約15km
			モデル化	M_w 6.7	30km	16km	90度	1-15km

強震動予測のための断層モデルのパラメータ

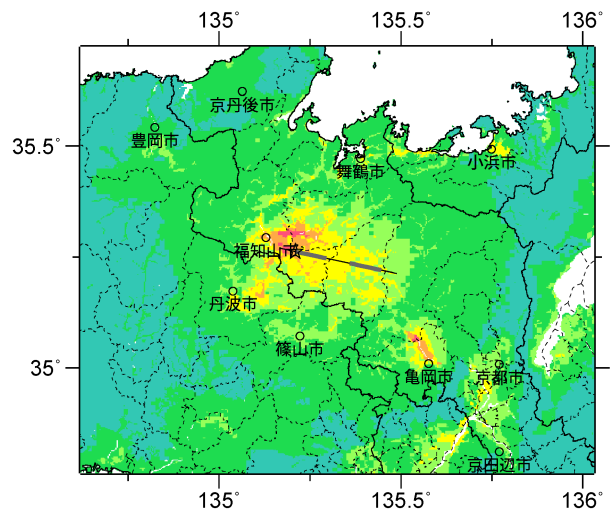
断層パラメータ	設定方法	想定三峠・京都西山断層帯地震
		三峠断層
断層帯原点	長期評価による	北緯35° 13'
活断層長さ L		26 km
気象庁マグニチュード M_{JMA}		7.2
地震モーメント M_0	$\log M_0 = 1.17 M_{JMA} + 10.72$	1.36E+19 Nm
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	6.7
断層モデル原点	地中の断層モデル原点位置	北緯35° 12' 47.6" 東経135° 29' 18.6"
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	1 km
断層モデル長さ L_{model}	ルールに従い設定	30 km
断層モデル幅 W_{model}	ルールに従い設定	16 km
断層モデル面積 S_{model}	ルールに従い設定	480 km ²
走向 θ	長期評価の原点を結ぶ方向	N 282.1° E
傾斜角 δ	高角度(地表付近)	90°
すべり角 γ	左横ずれ断層(北東側隆起の成分を伴う)	0°
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta\sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	3.1 MPa
平均すべり量 D	$D = M_0 / (\mu S_{model})$	0.9 m
剛性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10 N/m ²
密度 ρ	震源における密度	2700.0 kg/m ³
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.4 km/s
破壊伝播速度 V_r	$V_r = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976)より)	2.4 km/s
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	1.27E+19 N·m/s ²



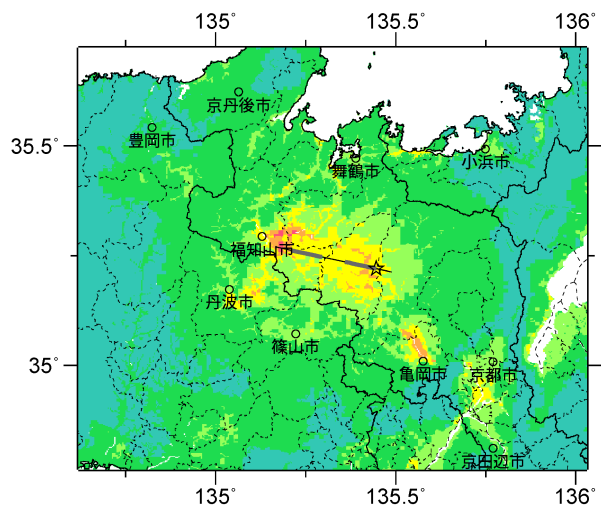
微視的断層モデルとその直交断面



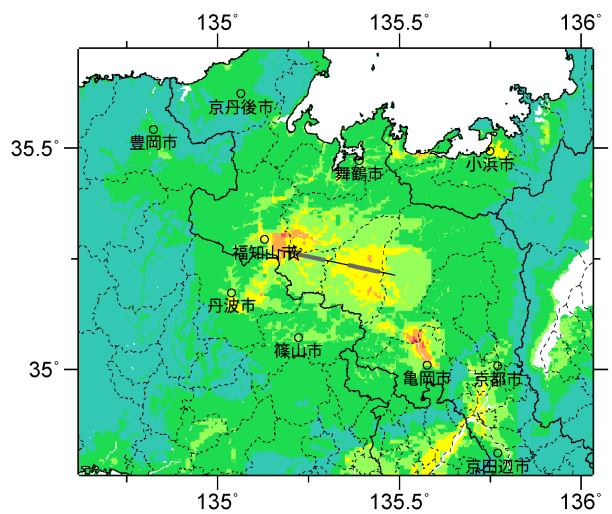
ケース 1



ケース 2

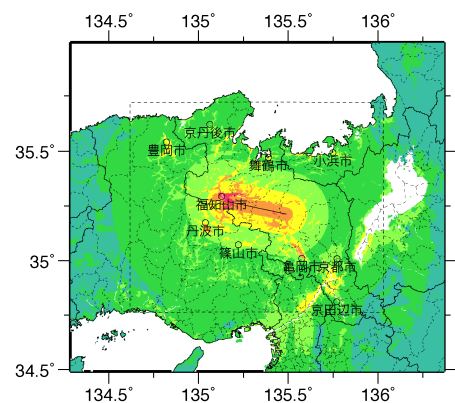


ケース 3



ケース 4

詳細法震度分布



※図中の破線範囲は詳細法による解析範囲を示す。

簡便法震度分布



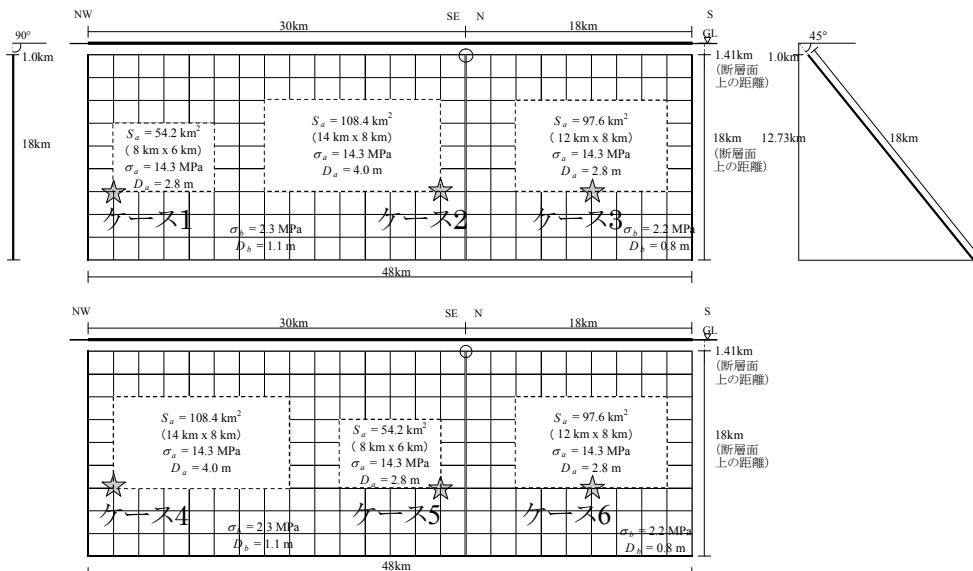
京都西山断層帯 (きょうとにしやまだんそうたい)

地震諸元

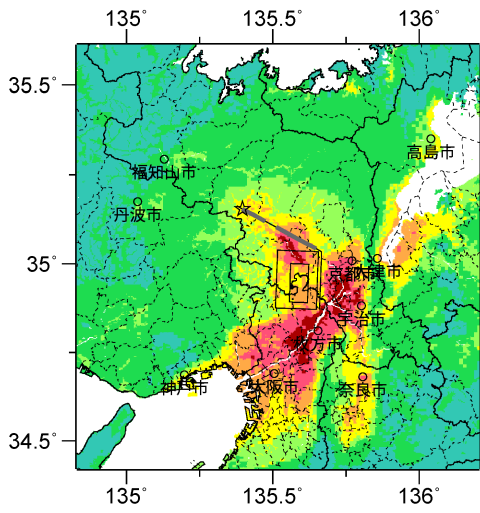
コード	断層名称	断層面の のずれ の向き		M_j	断層 長さ	断層面 の幅	断層面の 傾斜角	地震発生層 の深さ
7803	京都西山 断層帯	[北西半部]北東 側隆起の逆断層 成分を伴う左横 ずれ断層/[南 東半部]西側隆 起の逆断層	長期 評価	7.5程度	約42km	不明	一部北東傾斜 高角度 /西傾斜	下限 約15km
			モデル 化	M_w 7.0	30km 18km	18km 18km	90度 西傾斜45度	1-19km

強震動予測のための断層モデルのパラメータ

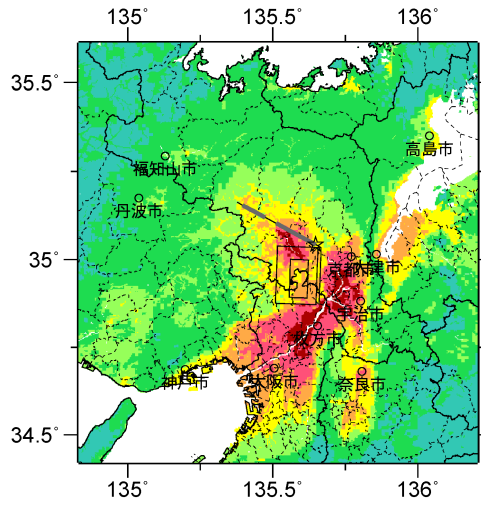
断層パラメータ	設定方法	想定三峠・京都西山断層帯地震	
		京都西山断層帯	
		北西半部	南東半部
断層帯原点	長期評価による	北緯35° 2'	北緯34° 53'
		東経135° 40'	東経135° 39'
活断層長さ L	長期評価による活断層長さは約42kmだが、 ここでは断層形状を尊重し、地震動予測地図 用に長さ M_{JMA} を設定	48 km	
気象庁マグニチュード M_{JMA}		7.6	
地震モーメント M_0	$\log M_0 = 1.17 M_{JMA} + 10.72$	4.50E+19 Nm	
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	7.0	
断層モデル原点	地中の断層モデル原点位置	北緯35° 1' 59.9"	北緯35° 2' 1.1"
		東経135° 40' 0.1"	東経135° 39' 20.5"
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	1 km	1 km
断層モデル長さ L_{model}	断層形状に従い設定	30 km	18 km
断層モデル幅 W_{model}	ルールに従い設定	18 km	18 km
断層モデル面積 S_{model}	ルールに従い設定	540 km ²	324 km ²
走向 θ	長期評価の原点と屈曲点を結ぶ方向	N 298.4° E	N 182° E
傾斜角 δ	(北西半部)高角度、一部北東傾斜(400m以浅) (南東半部)西傾斜(200m線維)	90°	45°
すべり角 γ	(北西半部)北東側隆起の逆断層成分を伴う左横ずれ (南東半部)西側隆起の逆断層	0°	90°
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta\sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	4.3 MPa	
平均すべり量 D	$D = M_0 / (\mu S_{model})$	1.7 m	
剛性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10 N/m ²	
密度 ρ	震源における密度	2700.0 kg/m ³	
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.4 km/s	
破壊伝播速度 V_f	$V_f = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976)より)	2.4 km/s	
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1.3}$	1.88E+19 N·m/s ²	



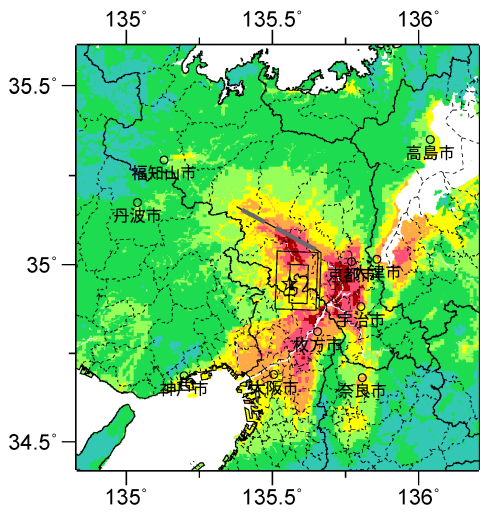
微視的断層モデルとその直交断面



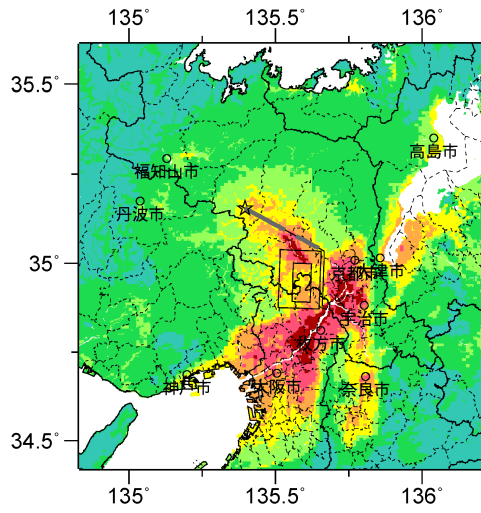
ケース 1



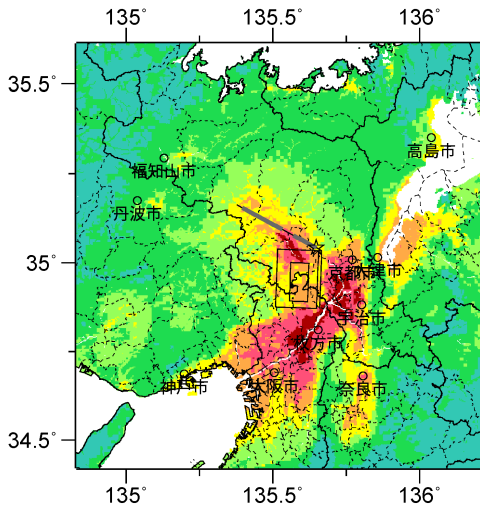
ケース 2



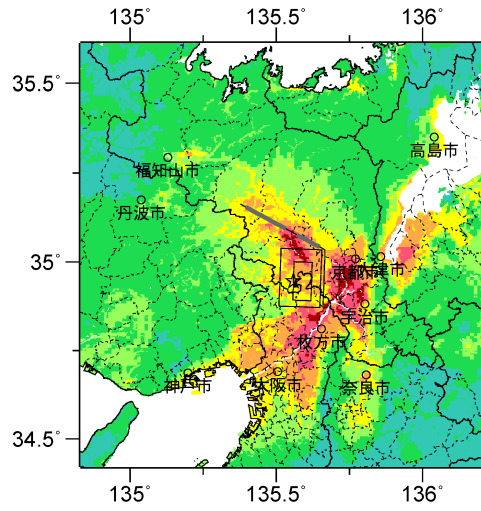
ケース 3



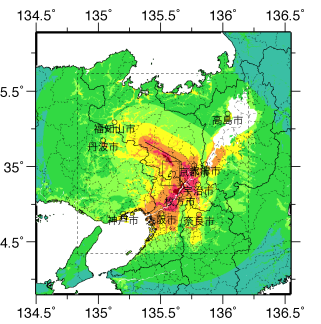
ケース 4



ケース 5



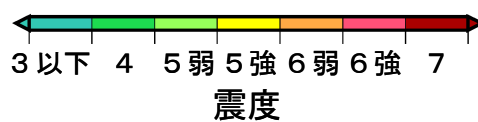
ケース 6



※図中の破線範囲は詳細法による解析範囲を示す。

詳細法震度分布

簡便法震度分布



六甲・淡路島断層帯主部 六甲山地南縁-淡路島東岸区間

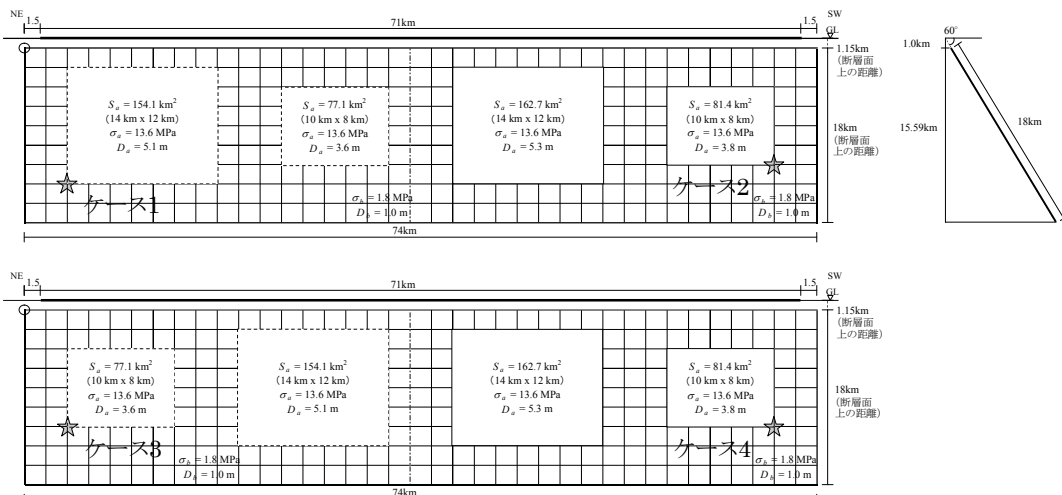
(ろっこう・あわじしまだんそうたいしゅぶ ろっこうさんちなんえん-あわじしまとうがんとくかん)

地震諸元

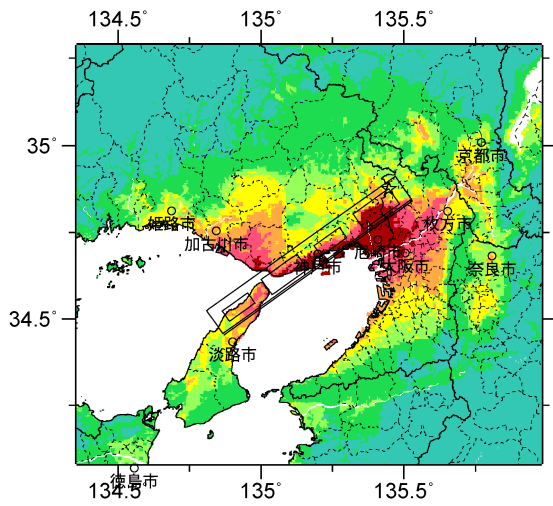
コード	断層名称	断層面のずれの向き		M_J	断層長さ	断層面の幅	断層面の傾斜角	地震発生層の深さ
7901	六甲・淡路島断層帯主部 六甲山地南縁-淡路島東岸区間	主として右横ずれ断層で北西側隆起の逆断層成分を伴う	長期評価	7.9程度	約71km	15-20km程度, 15km程度	北西傾斜50-70度, 北西傾斜高角度	下限 15km
			モデル化	M_w 7.3	74km	18km	北西傾斜60度	1-16km

強震動予測のための断層モデルのパラメータ

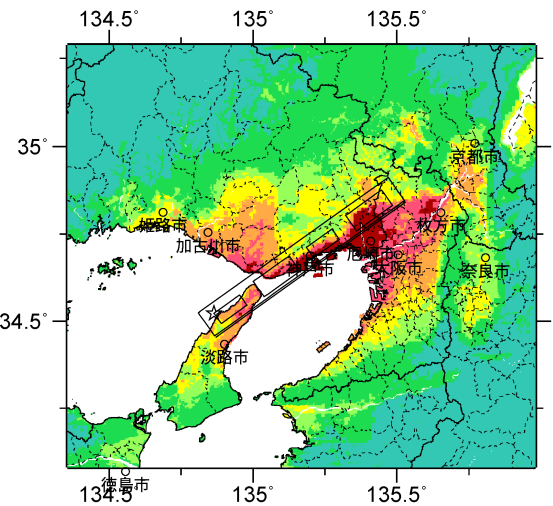
断層パラメータ	設定方法	想定六甲・淡路島断層帯地震	
		主部 六甲山地南縁-淡路島東岸区間	
		北東側	南西側
断層帯原点	長期評価による	北緯34° 50'	
活断層長さ L		71 km	
気象庁マグニチュード M_{JMA}		7.9	
地震モーメント M_0	$\log M_0 = 1.17 M_{JMA} + 10.72$	9.67E+19 Nm	
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	7.3	
断層モデル原点	地中の断層モデル原点位置	北緯34° 50' 43.6"	北緯34° 39' 24.4"
		東経135° 31' 34.9"	東経135° 12' 20.1"
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	1 km	1 km
断層モデル長さ L_{model}	ルールに従い設定	36 km	38 km
断層モデル幅 W_{model}	ルールに従い設定	18 km	18 km
断層モデル面積 S_{model}	ルールに従い設定	648 km ²	684 km ²
走向 θ	長期評価の原点と屈曲点を結ぶ方向	N 234.5° E	N 234.5° E
傾斜角 δ	(六甲山地南縁) 50-70° 北西傾斜 (約1km以浅) (淡路島東岸) 高角度北西傾斜 (約2-3km以浅)	60°	60°
すべり角 γ	右横ずれ断層、北西側隆起の逆断層成分を伴う	180°	180°
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta\sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	4.8 MPa	
平均すべり量 D	$D = M_0 / (\mu S_{model})$	2.3 m	
剛性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10 N/m ²	
密度 ρ	震源における密度	2700.0 kg/m ³	
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.4 km/s	
破壊伝播速度 V_r	$V_r = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976)より)	2.4 km/s	
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{13}$	2.43E+19 N·m/s ²	



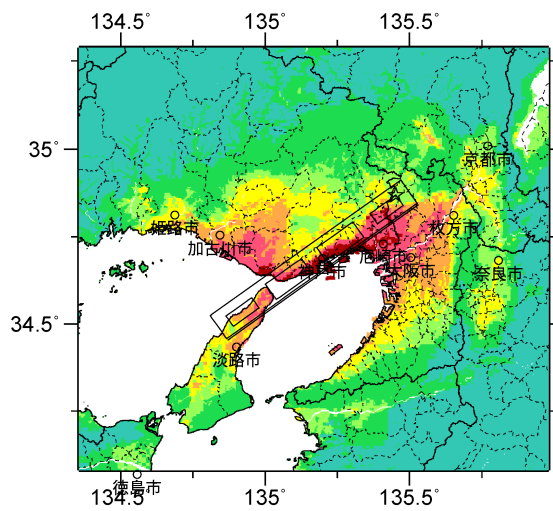
微視的断層モデルとその直交断面



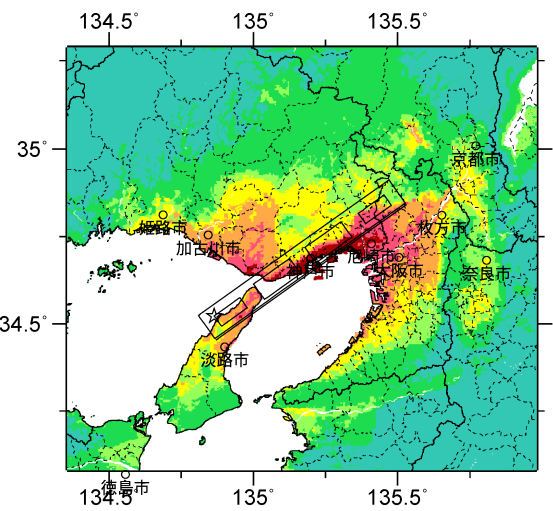
ケース 1



ケース 2

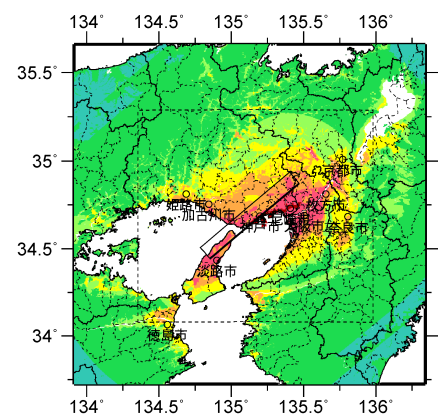


ケース 3



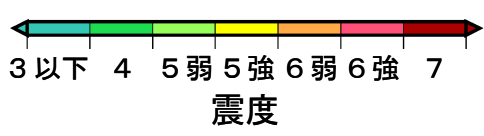
ケース 4

詳細法震度分布



※図中の破線範囲は詳細法による解析範囲を示す。

簡便法震度分布



六甲・淡路島断層帯主部 淡路島西岸区間

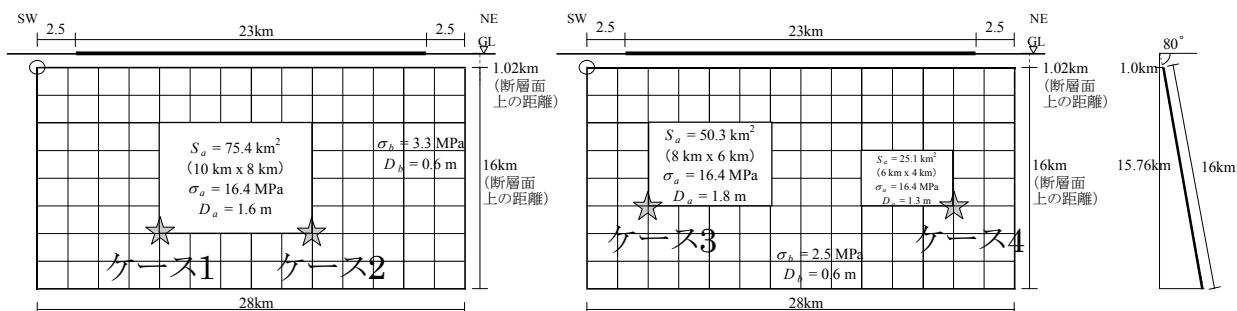
(ろっこう・あわじしまだんそうたいしゅぶ あわじしませいがんくかん)

地震諸元

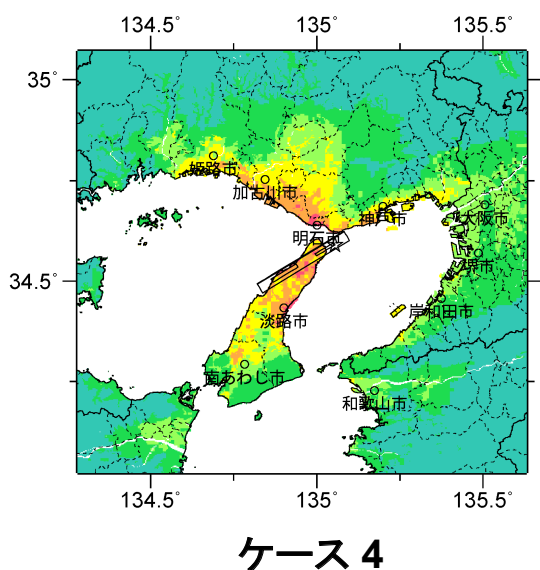
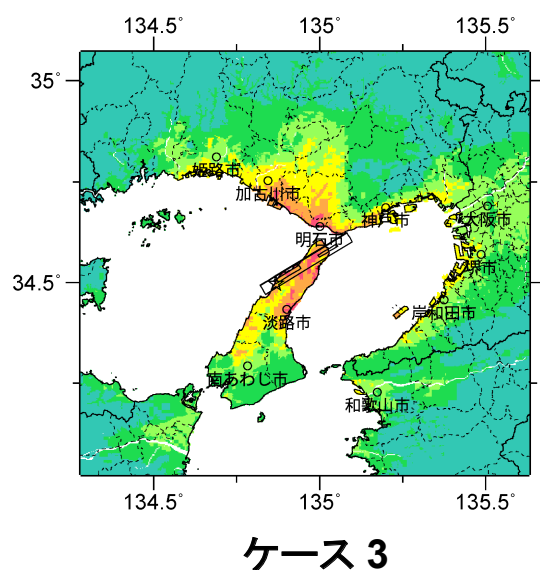
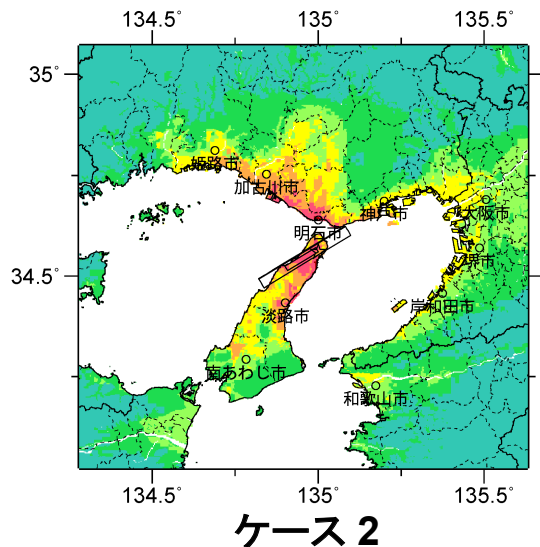
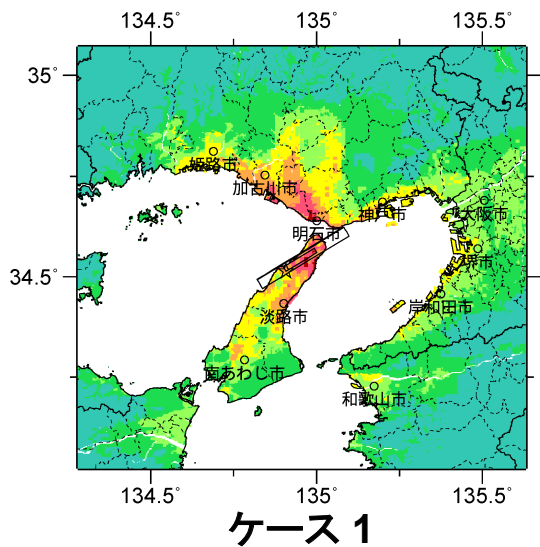
コード	断層名称	断層面の のずれ の向き		M_J	断層 長さ	断層面 の幅	断層面の 傾斜角	地震発生層 の深さ
7902	六甲・淡路島断層帯主部 淡路島西岸区間	右横ずれ断層で南東側隆起の逆断層成分を伴う	長期評価	7.1程度	約23km	15km程度	南東傾斜約80度	下限 15km
			モデル化	M_w 6.6	28km	16km	南東傾斜80度	1-16km

強震動予測のための断層モデルのパラメータ

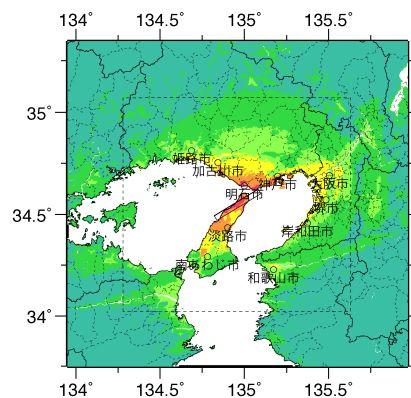
断層パラメータ	設定方法	想定六甲・淡路島断層帯地震
		主部 淡路島西岸区間
断層帯原点	長期評価による	北緯34° 31'
		東経134° 52'
活断層長さ L		23 km
気象庁マグニチュード M_{JMA}		7.1
地震モーメント M_0	$\log M_0 = 1.17 M_{JMA} + 10.72$	1.07E+19 Nm
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	6.6
断層モデル原点	地中の断層モデル原点位置	北緯34° 29' 32.2" 東経134° 49' 16.9"
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	1 km
断層モデル長さ L_{model}	ルールに従い設定	28 km
断層モデル幅 W_{model}	ルールに従い設定	16 km
断層モデル面積 S_{model}	ルールに従い設定	448 km ²
走向 θ	長期評価の原点を結ぶ方向	N 58.8° E
傾斜角 δ	約80° 南東傾斜(約600m以浅)	80°
すべり角 γ	右横ずれ断層、南東側隆起の逆断層成分を伴う	180°
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta\sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	2.8 MPa
平均すべり量 D	$D = M_0 / (\mu S_{model})$	0.8 m
剛性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10 N/m ²
密度 ρ	震源における密度	2700.0 kg/m ³
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.4 km/s
破壊伝播速度 V_r	$V_r = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976)より)	2.4 km/s
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	1.17E+19 N·m/s ²



微視的断層モデルとその直交断面



詳細法震度分布



簡便法震度分布



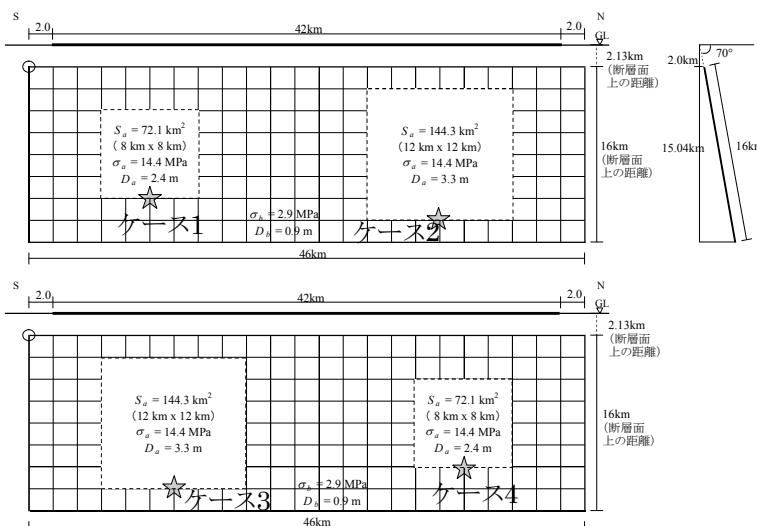
上町断層帯(直線ケース) (うえまちだんそうたい)

地震諸元

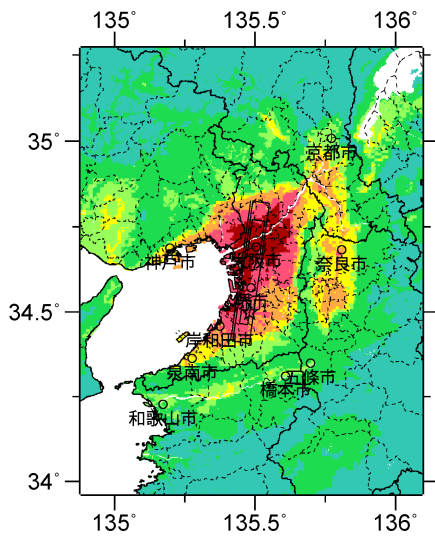
コード	断層名称	断層面の のずれ の向き		M_J	断層 長さ	断層面 の幅	断層面の 傾斜角	地震発生層 の深さ
8001	上町断層帯	東側隆起の 逆断層	長期 評価	7.5程度	約42km	15-20km	東傾斜 65-70度	下限 15km程度
			モデ ル化	M_w 7.0	46km	16km	東傾斜 70度	2-15km

強震動予測のための断層モデルのパラメータ

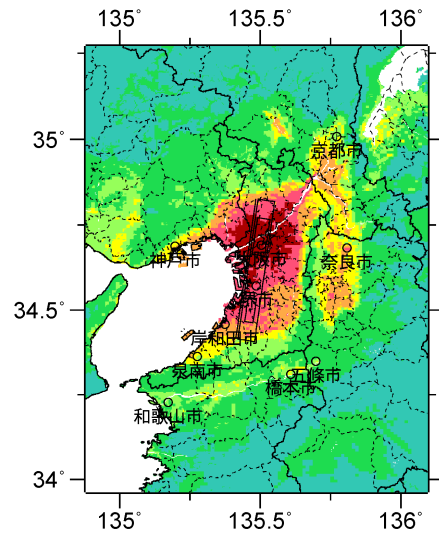
断層パラメータ	設定方法	想定上町断層帯地震
断層帯原点	長期評価による	北緯34° 26'
活断層長さ L		東経135° 25'
気象庁マグニチュード M_{JMA}		42 km
地震モーメント M_0	$\log M_0 = 1.17 M_{JMA} + 10.72$	7.5
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	3.47E+19 Nm
断層モデル原点	地中の断層モデル原点位置	7.0
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	北緯34° 24' 50.6"
断層モデル長さ L_{model}	ルールに従い設定	東経135° 25' 15"
断層モデル幅 W_{model}	ルールに従い設定	2 km
断層モデル面積 S_{model}	ルールに従い設定	46 km
走向 θ	長期評価の原点を結ぶ方向	16 km
傾斜角 δ	東傾斜65-70° (地下1km以浅)	736 km ²
すべり角 γ	東側隆起の逆断層	70°
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta\sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	90°
平均すべり量 D	$D = M_0 / (\mu S_{model})$	4.2 MPa
剛性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	1.5 m
密度 ρ	震源における密度	3.12E+10 N/m ²
S波速度 β	震源におけるS波速度	2700.0 kg/m ³
破壊伝播速度 V_f	$V_f = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976)より)	3.4 km/s
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	2.4 km/s
		1.73E+19 N·m/s ²



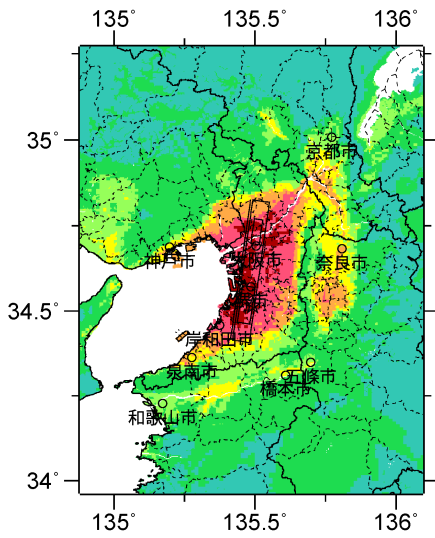
微視的断層モデルとその直交断面



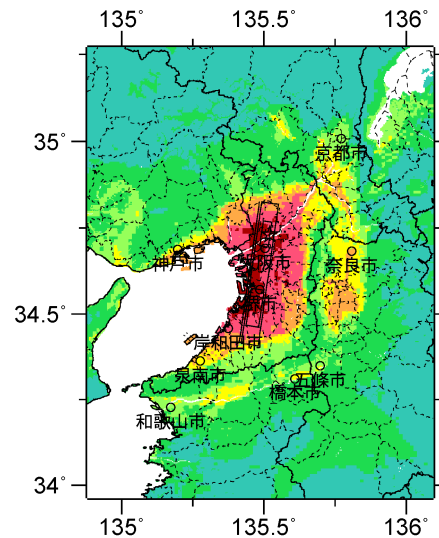
ケース 1



ケース 2

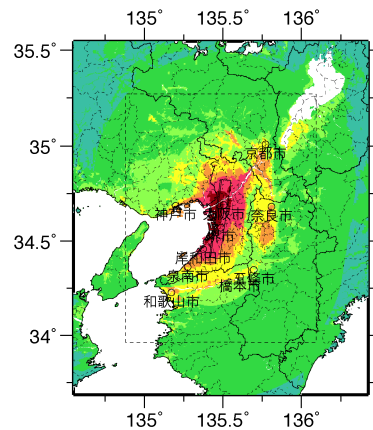


ケース 3



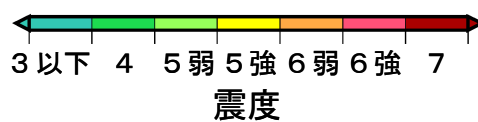
ケース 4

詳細法震度分布



※図中の破線範囲は詳細法による解析範囲を示す。

簡便法震度分布



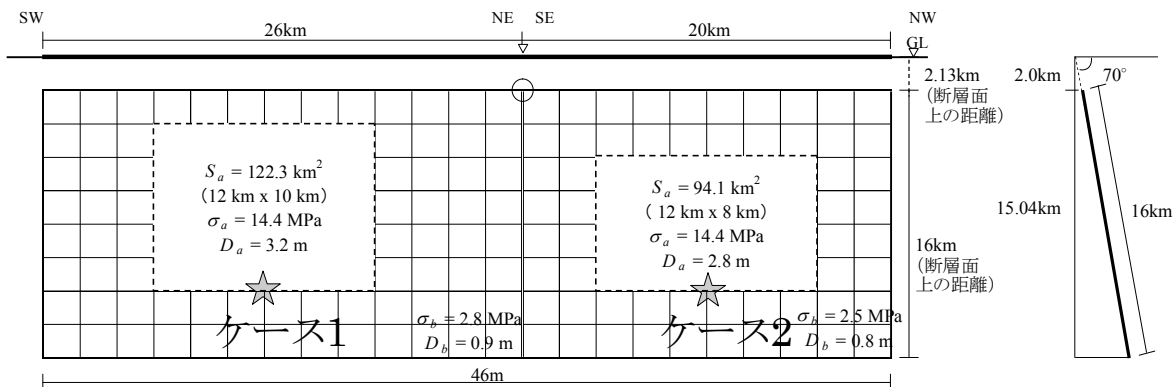
上町断層帯(屈曲ケース) (うえまちだんそうたい)

地震諸元

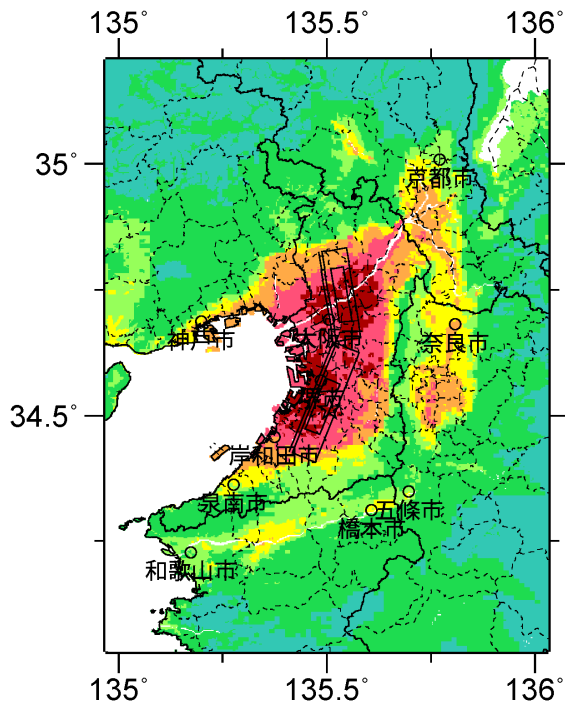
コード	断層名称	断層面のずれの向き		M_J	断層長さ	断層面の幅	断層面の傾斜角	地震発生層の深さ
8001	上町断層帯	東側隆起の逆断層	長期評価	7.5程度	約42km	15-20km	東傾斜65-70度	下限15km程度
			モデル化	M_w 7.0	46km	16km	東傾斜70度	2-15km

強震動予測のための断層モデルのパラメータ

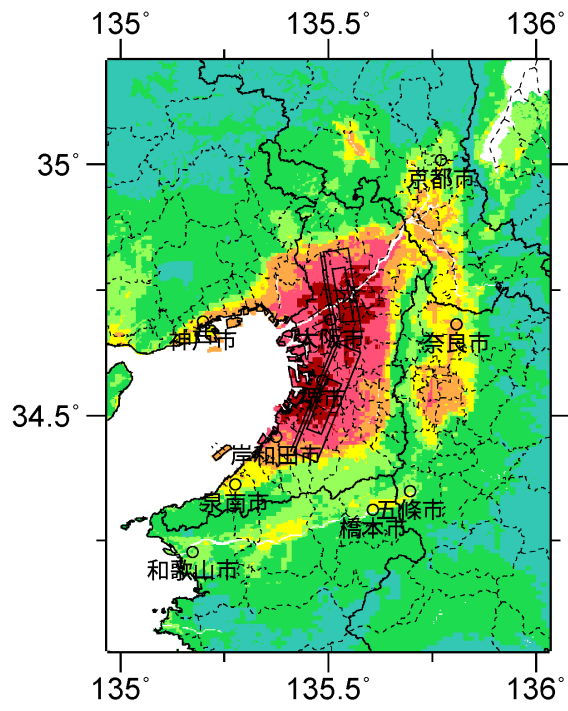
断層パラメータ	設定方法	想定上町断層帯地震	
		北側	南側
断層帯原点	長期評価による地表トレース上で設定した屈曲点	北緯34° 39'	
活断層長さ L		42 km	
気象庁マグニチュード M_{JMA}		7.5	
地震モーメント M_0	$\log M_0 = 1.17 M_{JMA} + 10.72$	3.47E+19 Nm	
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	7.0	
断層モデル原点	地中の断層モデル屈曲点位置	北緯34° 38' 49.4"	
		東経135° 31' 22.2"	
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	2 km	2 km
断層モデル長さ L_{model}	ルールに従い設定	20 km	26 km
断層モデル幅 W_{model}	ルールに従い設定	16 km	16 km
断層モデル面積 S_{model}	ルールに従い設定	320 km ²	416 km ²
走向 θ	長期評価の原点と屈曲点を結ぶ方向	N 350.8° E	N 201.8° E
傾斜角 δ	東傾斜65-70° (地下1km以浅)	70°	110°
すべり角 γ	東側隆起の逆断層	90°	90°
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta\sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	4.2 MPa	
平均すべり量 D	$D = M_0 / (\mu S_{model})$	1.5 m	
剛性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10 N/m ²	
密度 ρ	震源における密度	2700.0 kg/m ³	
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.4 km/s	
破壊伝播速度 V_r	$V_r = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976)より)	2.4 km/s	
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	1.73E+19 N·m/s ²	



微視的断層モデルとその直交断面

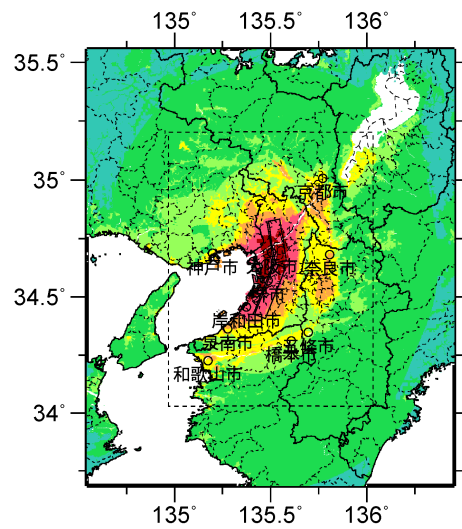


ケース 1



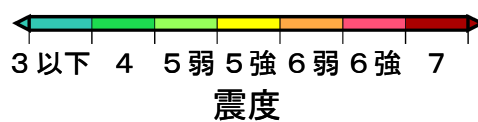
ケース 2

詳細法震度分布



※図中の破線範囲は詳細法による解析範囲を示す。

簡便法震度分布



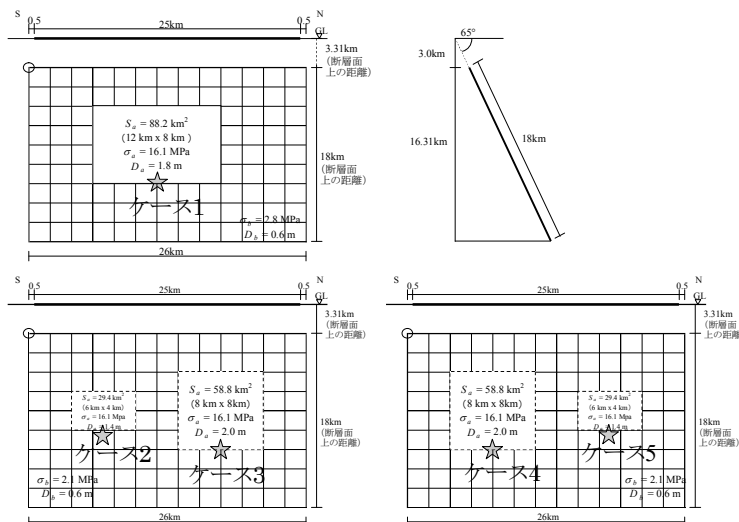
伊勢湾断層帯主部北部 (いせわんだんそうたいしゅぶほくぶ)

地震諸元

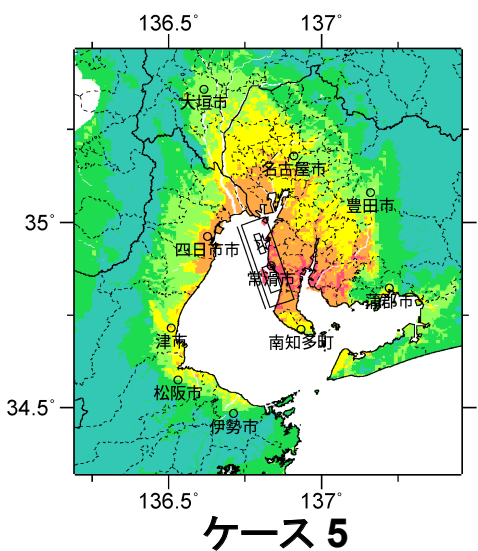
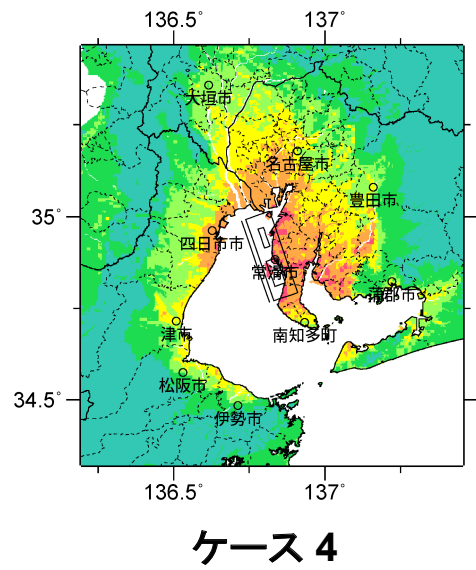
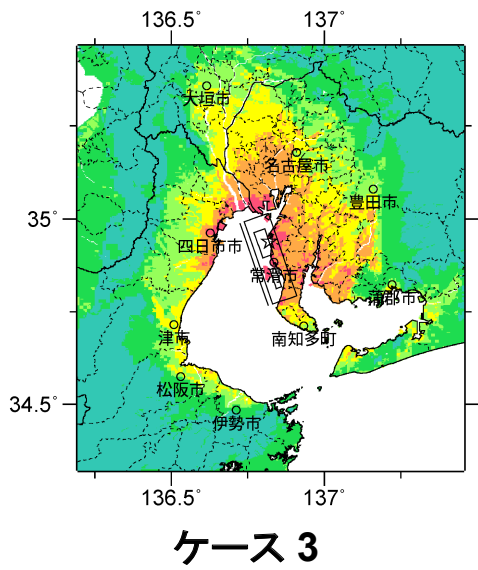
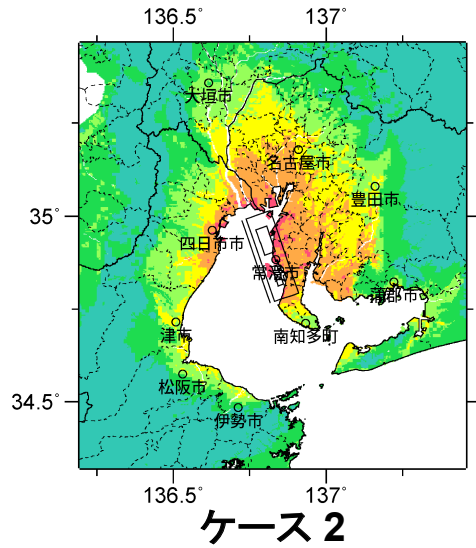
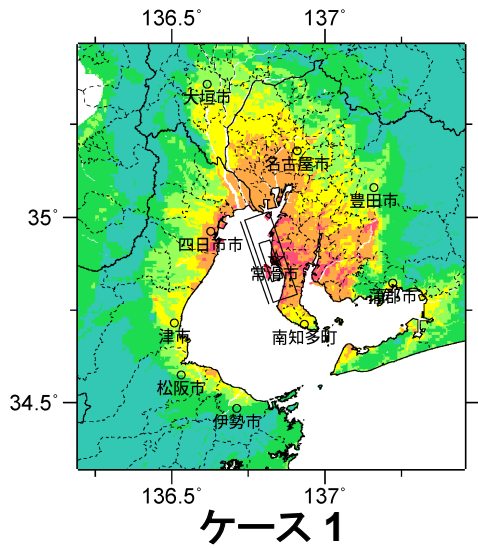
コード	断層名称	断層面のずれの向き		M_J	断層長さ	断層面の幅	断層面の傾斜角	地震発生層の深さ
9701	伊勢湾断層帯主部北部	東側隆起の逆断層	長期評価	7.2程度	約25km	15-25km程度	東傾斜60-70度	下限15-20km程度
			モデル化	M_w 6.7	26km	18km	東傾斜65度	3-23km

強震動予測のための断層モデルのパラメータ

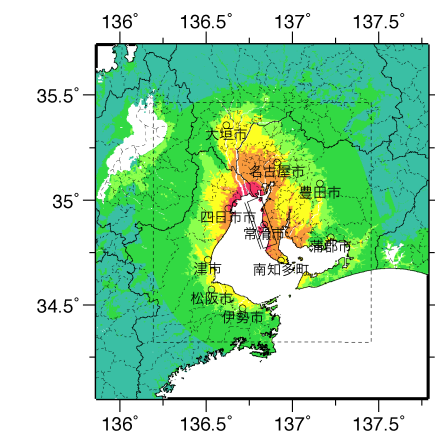
断層パラメータ	設定方法	想定伊勢湾断層帯地震
		主部北部
断層帯原点	長期評価による	北緯34° 46'
活断層長さ L		東経136° 49'
気象庁マグニチュード M_{JMA}		25 km
地震モーメント M_0	$\log M_0 = 1.17 M_{JMA} + 10.72$	7.2
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	1.26E+19 Nm
断層モデル原点	地中の断層モデル原点位置	6.7
断層モデル上端深さ	微小地震の発生及びS波速度を参考に設定	北緯34° 46' 14.8"
断層モデル長さ L_{model}	ルールに従い設定	東経136° 49' 52.1"
断層モデル幅 W_{model}	ルールに従い設定	3 km
断層モデル面積 S_{model}	ルールに従い設定	26 km
走向 θ	長期評価の原点を結ぶ方向	18 km
傾斜角 δ	東傾斜60-70° (地下2km以浅)	468 km ²
すべり角 γ	東側隆起の逆断層	N 341° E
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta\sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	65°
平均すべり量 D	$D = M_0 / (\mu S_{model})$	90°
剛性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10 N/m ²
密度 ρ	震源における密度	2700.0 kg/m ³
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.4 km/s
破壊伝播速度 V_r	$V_r = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976)より)	2.4 km/s
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	1.23E+19 N·m/s ²



微視的断層モデルとその直交断面

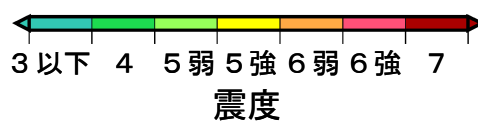


詳細法震度分布



※図中の破線範囲は詳細法による解析範囲を示す。

簡便法震度分布



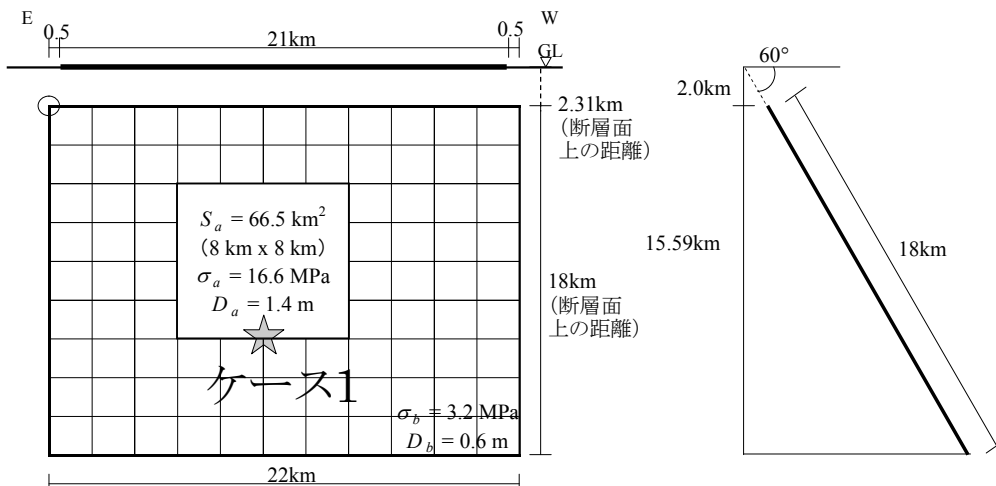
白子一野間断層 (しろこーのまだんそう)

地震諸元

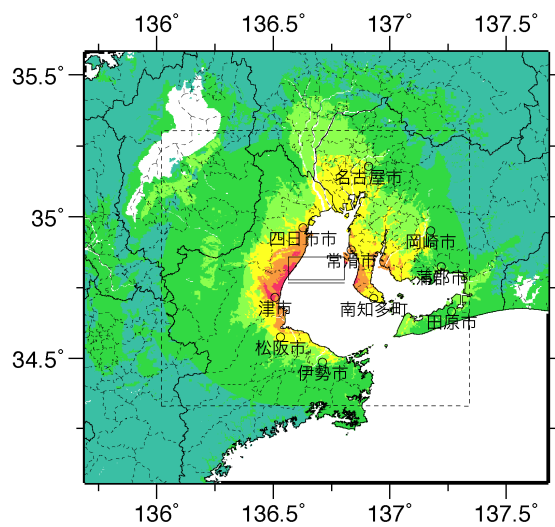
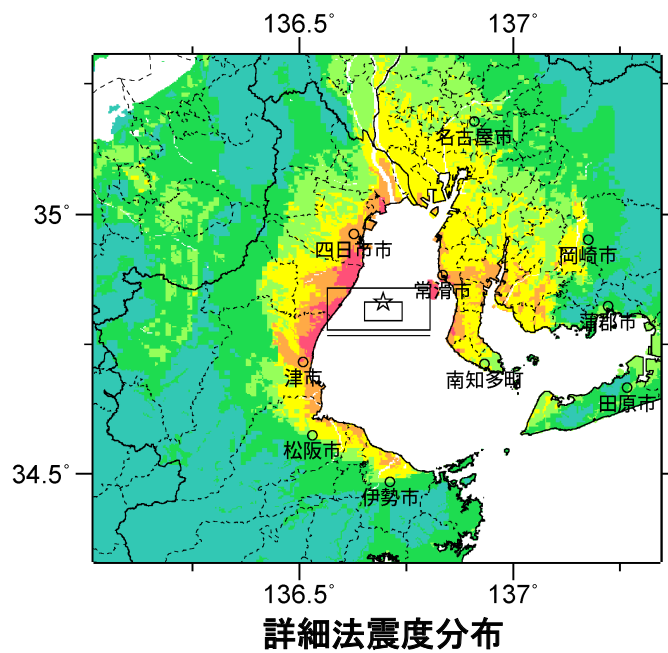
コード	断層名称	断層面の のずれの の向き		M_J	断層 長さ	断層面 の幅	断層面の 傾斜角	地震発生層 の深さ
9703	白子一 野間断層	北側隆起の 逆断層成分 をもつ	長期 評価	7.0程度	約21km	15-20km 程度	北傾斜 高角	下限 15-20km程 度
			モデ ル化	M_w 6.6	22km	18km	北傾斜 60度	2-21km

強震動予測のための断層モデルのパラメータ

断層パラメータ	設定方法	想定伊勢湾断層帯地震
		白子一野間断層
断層帯原点	長期評価による	北緯34° 46'
活断層長さ L		東経136° 48'
気象庁マグニチュード M_{JMA}		21 km
地震モーメント M_0	$\log M_0 = 1.17 M_{JMA} + 10.72$	7.0
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	8.98E+18 Nm
断層モデル原点	地中の断層モデル原点位置	6.6
断層モデル上端深さ	微小地震の発生及びS波速度を参考に設定	北緯34° 46' 37.6"
断層モデル長さ L_{model}	ルールに従い設定	東経136° 48' 19.8"
断層モデル幅 W_{model}	ルールに従い設定	2 km
断層モデル面積 S_{model}	ルールに従い設定	22 km
走向 θ	長期評価の原点を結ぶ方向	18 km
傾斜角 δ	高角北傾斜(深さ1.5km未満)	396 km ²
すべり角 γ	北側隆起の逆断層	N 270.1° E
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta\sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	60°
平均すべり量 D	$D = M_0 / (\mu S_{model})$	90°
剛性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	2.8 MPa
密度 ρ	震源における密度	0.7 m
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.12E+10 N/m ²
破壊伝播速度 V_r	$V_r = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976)より)	2700.0 kg/m ³
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	3.4 km/s
		2.4 km/s
		1.10E+19 N·m/s ²

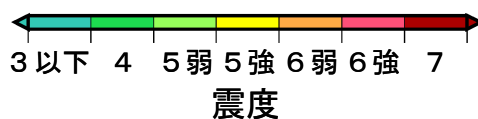


微視的断層モデルとその直交断面



※図中の破線範囲は詳細法による解析範囲を示す。

簡便法震度分布



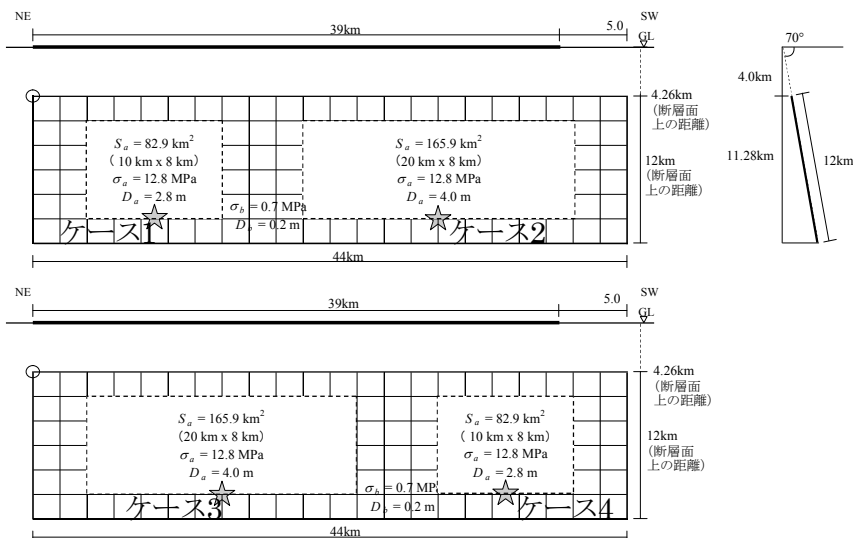
大阪湾断層帯 (おおさかわんだんそうたい)

地震諸元

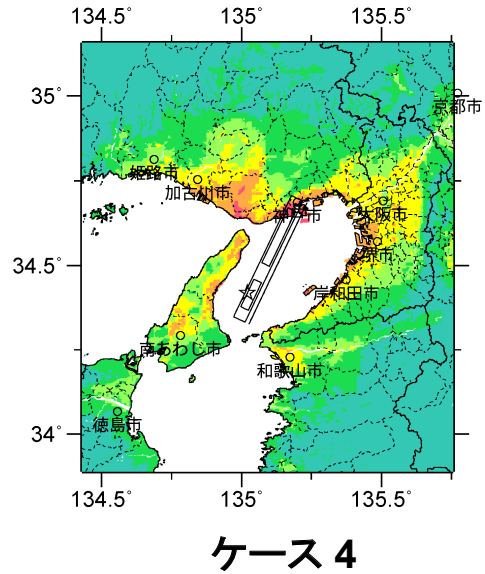
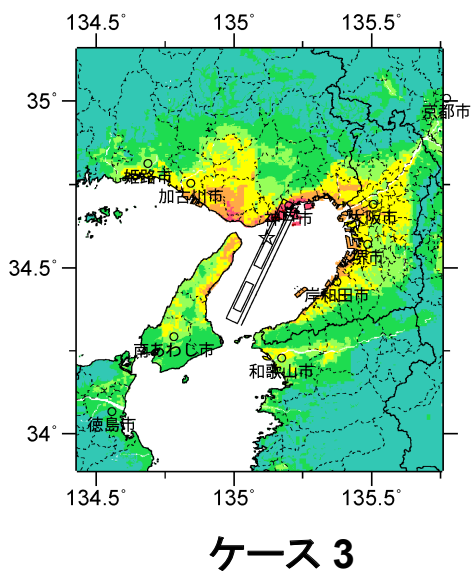
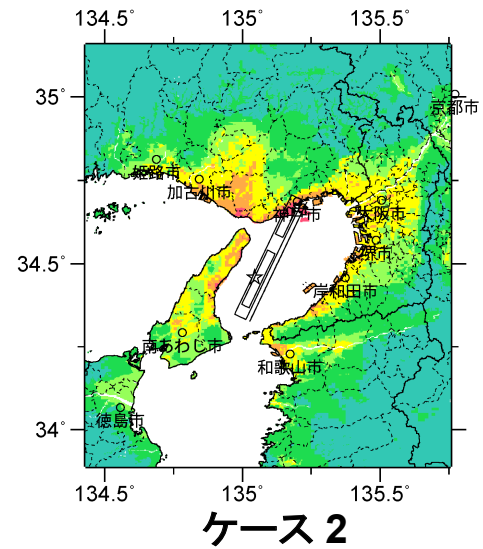
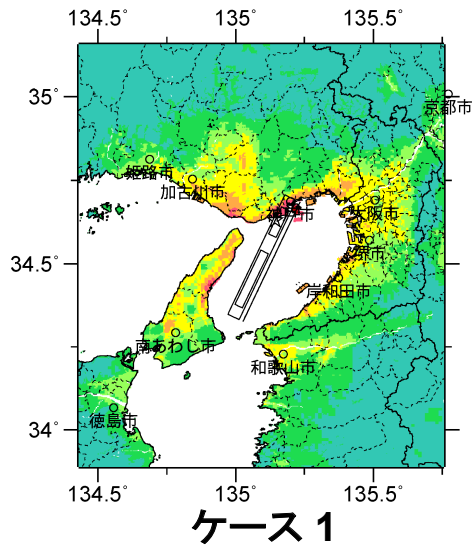
コード	断層名称	断層面のずれの向き		M_J	断層長さ	断層面の幅	断層面の傾斜角	地震発生源の深さ
9801	大阪湾断層帯	北西側隆起の逆断層	長期評価	7.5程度	約39km	約15-20km	西傾斜60-80度	下限15km程度
			モデル化	M_w 6.9	44km	12km	西傾斜70度	4-15km

強震動予測のための断層モデルのパラメータ

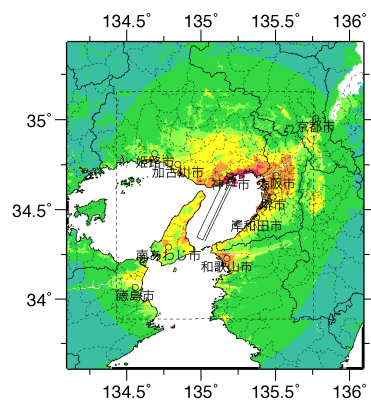
断層パラメータ	設定方法	想定大阪湾断層帯地震
断層帯原点	長期評価による	北緯34° 41'
活断層長さ L		東経135° 14'
気象庁マグニチュード M_{JMA}		39 km
地震モーメント M_0	$\log M_0 = 1.17 M_{JMA} + 10.72$	7.5
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	3.00E+19 Nm
断層モデル原点	地中の断層モデル原点位置	6.9
断層モデル上端深さ	微小地震の発生及びS波速度を参考に設定	北緯34° 41' 23.2"
断層モデル長さ L_{model}	ルールに従い設定	東経135° 13' 8.5"
断層モデル幅 W_{model}	ルールに従い設定	4 km
断層モデル面積 S_{model}	ルールに従い設定	44 km
走向 θ	長期評価の原点を結ぶ方向	12 km
傾斜角 δ	西傾斜60-80° (地下3km以浅)	528 km ²
すべり角 γ	北西側隆起の逆断層	N 205.6° E
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta\sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	70°
平均すべり量 D	$D = M_0 / (\mu S_{model})$	90°
剛性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	6.0 MPa
密度 ρ	震源における密度	1.8 m
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.12E+10 N/m ²
破壊伝播速度 V_r	$V_r = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976)より)	2700.0 kg/m ³
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	3.4 km/s
		2.4 km/s
		1.65E+19 N·m/s ²



微視的断層モデルとその直交断面

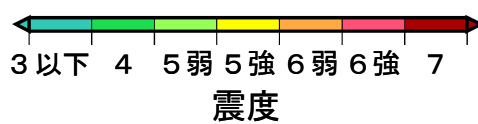


詳細法震度分布



※図中の破線範囲は詳細法による解析範囲を示す。

簡便法震度分布



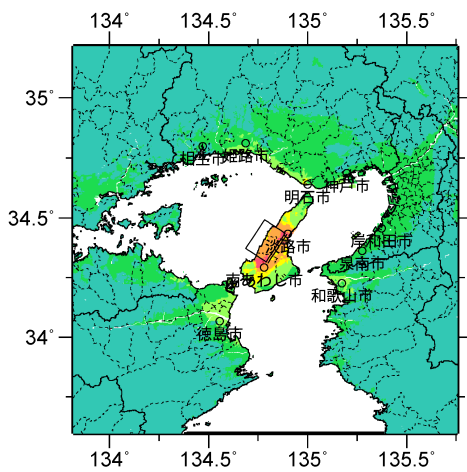
先山断層帯 (せんざんだんそうたい)

地震諸元

コード	断層名称	断層面の のずれ の向き		M_J	断層 長さ	断層面 の幅	断層面の 傾斜角	地震発生層 の深さ
7903	先山断層帯	北西側隆起 の逆断層	長期 評価	6.6程度	約12km	不明	北西傾斜	下限 15km
			モデル 化	6.6	11km	11km	北西傾斜 45度	1-16km

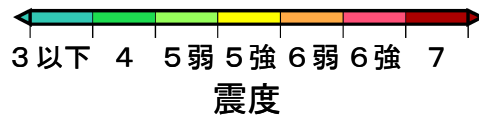
強震動予測のための断層モデルのパラメータ

断層パラメータ	設定方法	想定六甲・淡路島断層帯地震
		先山断層帯
断層帯原点	長期評価による	北緯34° 25'
活断層長さ L		東経134° 53'
気象庁マグニチュード M_{JMA}		12 km
地震モーメント M_0	$\log M_0 = 1.17 M_{JMA} + 10.72$	6.6
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	3.02E+18 Nm
断層モデル原点	地中の断層モデル原点位置	6.3
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	北緯34° 25' 15.6"
断層モデル長さ L_{model}	2008年版による設定	東経134° 52' 30"
断層モデル幅 W_{model}	2008年版による設定	1 km
断層モデル面積 S_{model}	2008年版による設定	11 km
走向 θ	長期評価の原点を結ぶ方向	11 km
傾斜角 δ	北西傾斜(地表付近)	121 km ²
		N 213.6° E
		45°



簡便法震度分布

※長期評価による断層長さが概ね10kmであるため、2008年版の確率論的地震動予測地図のパラメータにて簡便法のみにより計算した。



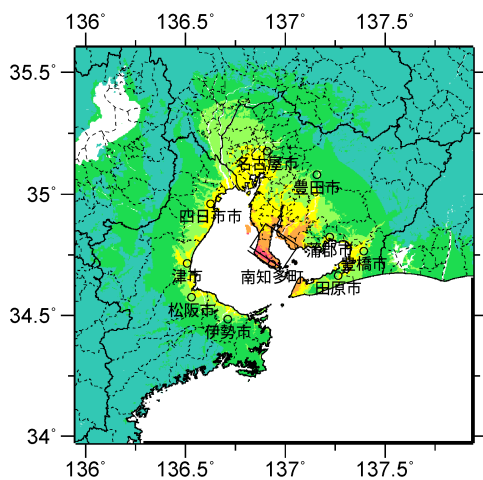
伊勢湾断層帯主部南部 (いせわんだんそうたいしゅぶなんぶ)

地震諸元

コード	断層名称	断層面のずれの向き		M_J	断層長さ	断層面の幅	断層面の傾斜角	地震発生層の深さ
9702	伊勢湾断層帯主部南部	北側隆起の断層(正、逆不明)	長期評価	6.9程度	約17km	不明	不明	下限 15-20km程度
			モデル化	M_w 6.4	18km	18km	北傾斜 45度	2-19km

強震動予測のための断層モデルのパラメータ

断層パラメータ	設定方法	想定伊勢湾断層帯地震
		主部南部
断層帯原点	長期評価による	北緯34° 41'
活断層長さ L		東経136° 58'
気象庁マグニチュード M_{JMA}		17 km
地震モーメント M_0	$\log M_0 = 1.17 M_{JMA} + 10.72$	6.9
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	5.95E+18 Nm
断層モデル原点	地中の断層モデル原点位置	6.4
断層モデル上端深さ	微小地震の発生及びS波速度を参考に設定	北緯34° 41' 34.7"
断層モデル長さ L_{model}	ルールに従い設定	東経136° 59' 15.7"
断層モデル幅 W_{model}	ルールに従い設定	2 km
断層モデル面積 S_{model}	ルールに従い設定	18 km
走向 θ	長期評価の原点を結ぶ方向	18 km
傾斜角 δ	傾斜不明	324 km ²
		N 303.9° E
		45°



簡便法震度分布

※長期評価による断層長さが20km未満であるため、簡便法のみにより計算した。

